

2025年度

教育概要

— 教育理念及び学科指導要綱 —

勤医協札幌看護専門学校

看護学科 回生 氏名

———目次———

教育理念・教育目的・教育目標・ディプロマポリシー	1
カリキュラム編成の基本となる概念	2
用語解	3
教育課程構造図	4
学年別到達目標	5
教育課程	6
2025 年度教育課程進度	7
教科外学習活動及び学校行事	8
＜授業科目と教育概要＞	
【基礎分野】	
・科目設定の理由と科目一覧	9
・授業概要	11
【専門基礎分野】	
・科目設定の理由と科目一覧	27
・授業概要	30
【専門分野】	
・科目設定の理由と科目一覧	50
基礎看護学	56
地域・在宅看護論	68
成人看護学	74
老年看護学	80
精神看護学	84
小児看護学	88
母性看護学	92
【統合分野】	
・科目設定の理由と科目一覧	96
看護の統合と実践	97
臨地実習	101

教育理念

本校は総合的な保健・医療・福祉の視点から看護師として必要な基礎的知識・技術・素養を習得させるとともに、平和で豊かな社会建設の形成者として貢献出来る民主的で人間性豊かな看護の専門家を育成するために、日本国憲法の理念に基づき教育を行う。

教育目的

本校は看護師として必要な知識および技術を習得させるとともに、生命と人権を尊重できる豊かな人間性を養い地域医療の発展充実に寄与し、広く社会に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

教育目標

1. 基本的人権を擁護する看護の視点を身につける。
2. 人々の健康上の課題に対応できる科学的思考に基づいた看護を多職種と協働し実践できる。
3. 看護の専門性を認識し探究し続けることができる。
4. 地域で暮らす人々の要求に応える看護の役割を理解できる。

ディプロマポリシー

1. 看護の対象である人間は基本的人権を有し、地域社会において生活を営む存在であることが理解できる。
2. 人々の健康は生活と労働その他の社会的決定要因に影響されることを理解できる。
3. 看護は対象の基本的人権を護ることを基盤とし、多職種およびあらゆる人々と、組織との連携により地域包括ケアの一翼を担う社会活動であることを理解できる。
4. 人々の健康状態を科学的にとらえ、目的意識的に看護を実践することができる。
5. 対象の自己決定に基づき、その人らしく生きるための看護を実践できる。
6. 専門職としての責任を自覚し、向上心を持って行動することができる。
7. 多職種協働の学習を通じて、その意義と看護の役割を理解できる。
8. 安心して住み続けられるまちづくりの必要性を理解できる。

カリキュラム編成の基本となる概念

<人間>

1. 人間は基本的人権を有し、地域社会において生活を営む存在である。
2. 人間は、かけがえのない生命を持ち個人として尊重される存在である。
3. 人間は、人間としての要求を実現するために、環境に働きかけ制限を乗り越え、発達する存在である。
4. 人間は歴史的に進化し、発達してきた生命活動を営む存在である。

<健康>

1. 健康は日本国憲法に保障された基本的権利である。
2. 健康は、個人が生命活動を基盤に、人間らしい生活が営める状態をいう。
3. 個人の健康は生活、労働その他の社会的決要因によって影響される。
4. 健康は、個人と社会がヘルスプロモーションに取り組むことによって向上させることができる。

<看護>

1. 看護は対象の基本的人権を護ることを基盤とし、多職種及びあらゆる人々、組織との連携によって、地域包括ケアの一翼を担う社会的活動である。
2. 看護は、対象の自己決定に基づき、その人らしく生きることを支援する。
3. 看護は、あらゆる人々、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、その人らしく生を全うできるように援助を行うことを目的とする。
4. 看護は、対象の病態を科学的にとらえ、目的意識的に実践する過程である。

<社会>

1. 人間の社会は経済構造を土台として、政治、法律、環境、文化などを形成している。
2. 人間は生存のためのあらゆる努力の積み重ねのなかで、基本的人権や国民主権の政治制度、民主主義の確立・充実を目指してきた。
3. 社会は人間が主体となって働きかけ変革していく中で発展する。平和と民主主義は人間社会の発展にとって不可欠のものであり、人類共通の普遍的価値である。

<教育・学習>

1. 人間は誰もが発達する可能性を持っており、等しく教育を受ける権利を有している。
2. 教育の目的は、平和、民主主義、人権を基本として、主体者として勤労と責任を重んじ自主的精神に満ちた心身ともに健康な国民の育成である。
3. 学習は、学生が主体者として、能動的に学びを探究する活動である。
4. 学習は、学生が仲間と「分かり合う喜びを」を体験し、共同して学びを発展させる活動である。

<用語解>

・生活

生活とは、経済生活(生産労働と消費生活)、地域生活(家族と家族の共同関係)、政治生活(家族を超えた共同体を形成し主権者として活動する)、精神生活(芸術・芸能・思想・宗教、芸術を楽しみ、自分の要求や思想を表現し交流しあう)など、人々が多様な価値観のもとに暮らしを営むこと。

・生命活動

生物に共通する生命活動は、1. 物質代謝を営む、2. 刺激を感受(感じ)反応(運動)する、3. 自己複製・生殖活動である。生物が、外界の環境が変化しても体内の状態を比較的安定に保持できるのはホメオスタシス(恒常性)維持の能力を備えているからである。ホメオスタシスの維持には身体全ての器官系がおのおのの役割を担い、機能を発揮する。

・人間らしい生活

生物としての生命活動を土台に、人間が自然を変える労働、社会を変える社会的実践、そして自分自身を変えていく自己変革・発達、そして人生を楽しみ、人類の生み出した文化、芸術などの良き物を享受するというような人間固有の諸活動を営むこと。

・ヘルスプロモーション(health promotion)

1986年に世界保健機関によって提唱された、人々の健康の維持・増進のための活動・戦略である。世界保健機関の定義では「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」とされている。この定義はその後2005年のバンコク憲章で、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにする過程」と改定された。

ヘルスプロモーションでは健康的な生活を送るための技術や能力を高めることを個人だけに求めるのではなく、それを支援する環境を社会的、経済的、政治的に作り出すことが重要視される。

・地域包括ケア

行政、医療・介護施設、福祉、地域住民が連携共同し、「お金のあるなしに関わらず、必要な「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく保障される、「誰もが、最後まで安心して暮らせるまちづくり」を目指す取り組み。

教育課程構造図

専門分野は、幅広いものの見方、考え方を身につけるとともに、自己を含む人間を理解し信頼関係を構築する能力を高め、知性と感性豊かな人間として成長し、対象の基本的人権を擁護する看護実践者としての土台を構築する分野である。

専門基礎分野は、基礎分野の上に看護専門職としての基盤を積み上げる分野である。人間の生命活動を理解する基礎的知識と、疾病の病態生理や障害を学ぶことによって、臨床判断力を養い、根拠を持った看護実践の基礎の習得を目指す。同時に、対象を生活者としてとらえる視点、人々の健康を決定する社会的な諸問題にも視野を広げ、看護の役割を考察する基盤を構築する分野として位置付ける。

専門分野は、看護の専門的知識、技術を学び、臨床実践能力の習得を目指す分野として位置付ける。

基礎看護学は、看護の概念や役割を学ぶとともに、対象の多様性に対応した安楽で安全な看護を実践するための基礎となる基礎看護技術、看護過程を学ぶ内容とする。

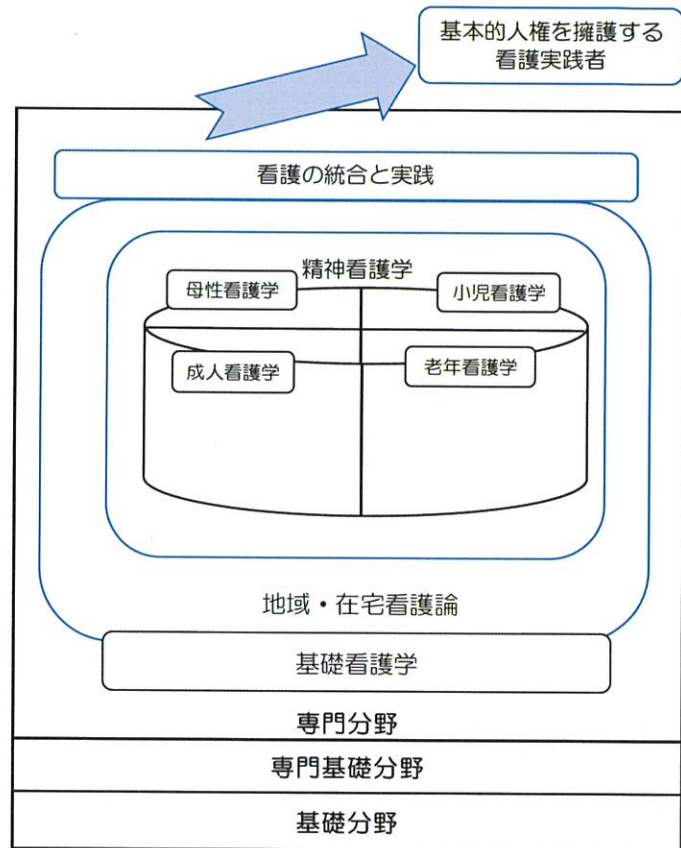
地域・在宅看護論は、様々なライフステージ、健康のレベルにある対象と家族をとらえ、居宅のみならず多様な場で生活、療養する対象に対する看護の役割と地域包括ケアの基礎を学ぶ内容とする。

精神看護学は、人間の発達と現在社会の精神心理的課題にも目を向けて人々のメンタルヘルスについて学ぶ内容とする。

各看護学の関係性は、人々は世代や性別を超えて次世代を生み育てる存在であり、人々の健康は地域社会の様々な要因によって影響を受け、家族や世代を超えて影響を及ぼすことから、母性看護学、小児看護学、成人看護学と老年看護学は互いに関連しあう位置づけとした。

看護の統合と実践は、災害看護や国際看護など、環境の変化や国際化に対応すると同時に、臨床実践能力の修得と、生涯学習、自己研鑽を続ける看護観を養う内容とする。

これらの教育課程により、本校教育理念の根幹となる基本的人権を擁護する看護の実践者を育成する。



学年別到達目標

学年 目標	1 年	2 年	3 年
1. 基本的人権を擁護する看護の視点を身に着ける。	① 健康は人間の基本的人権であることが理解できる。 ② 医療・看護の主体は、患者であることが理解できる。	① 闘病している対象の願いや期待をとらえ、その期待に応える医療・看護の在り方について問題意識を持つことができる。 ② 医療・看護は対象と医療従事者の協同の営みであることを理解できる。	① 対象を健康と労働・暮らしとの関わりでとらえ、医療保障や福祉の実態から基本的人権を護る医療、看護の役割を理解する。 ② 対象の意思決定を支援することができる。
2. 人々の健康上の課題に対応できる科学的思考に基づいた看護を多職種と協働し実践できる。	① 健康は身体的、精神的、社会的側面があることが理解できる。 ② 病気が生活に及ぼす影響をとらえ、必要な看護について理解する。 ③ 対象と信頼関係を築く基本的なコミュニケーション技術を身につける。 ④ 根拠に基づいた看護実践の必要性がわかる。	① 対象の健康状態と社会的決定要因との関連を理解することができる。 ② 対象の病態や生活背景をとらえ、看護展開する基礎的力を身につける。 ③ コミュニケーションを通し対象と信頼関係を築くことができる。 ④ 対象に合わせ根拠に基づいた看護実践ができる。	① 健康は人々と社会がヘルスプロモーションに取り組み向上することが理解できる。 ② 対象の発達過程の特徴をふまえ、病態を科学的に明らかにし、生活史、闘病史から対象の願いをとらえ看護展開することができる。 ③ 看護過程の評価を基に実践を発展させることができる。
3. 看護の専門性を認識し、探究し続けることができる。	① 疑問を自ら調べ解決し、学習を進めることができる。 ② 保健医療福祉の動向に関心を持つことができる。 ③ 集団学習を通して自分の考えや意見を述べ、学習目標を達成するために協力できる。 ④ 学習を通し、看護について考えることができる。	① 問題意識を持ち、自ら学習を進めることができる。 ② 人々の暮らしにおける保健医療福祉の現状をとらえることができる。 ③ 集団の中で自己の役割を自覚し、仲間の学びからも学ぶことができる。 ④ 学習体験を通し、自身の看護観を持つことができる。	① 自己研鑽する姿勢を身につける。 ② 保健医療福祉の現状に問題意識を持つことができる。 ③ 民主的な保健医療福祉チームの一員としての基礎的な力を身につける。 ④ 自身の看護観を深め明確にすることができる。
4. 地域で暮らす人々の要求に応える看護の役割を理解できる。	① 地域やそこで暮らす人々に関心を持つことができる。 ② 多職種の役割を理解し、協働の必要性がわかる。	① 地域やそこで暮らす人々の実態を理解することができる。 ② 多職種協働の実際がわかる。	① 地域で暮らす人々の健康への要求を知り、まちづくりの必要性を理解できる。 ② 多職種協働の実践を通し、看護の役割について理解できる。

教育課程

基礎分野			
	科目	単位	時間
科学的思考の基	哲学入門	1	30
	日本語表現	1	15
	物理学概論	1	15
	自然科学	1	30
	情報科学	1	30
人間と生活、社会の理解	心理学	1	30
	コミュニケーション論	1	15
	教育学概論	1	30
	社会学	1	30
	英語 I	1	30
	英語 II	1	30
	体育実技 I	1	30
	体育実技 II	1	15
	芸術	1	15
	(基礎分野 計)	14	345

専門基礎分野			
	科目	単位	時間
人体の構造と機能を科学的に理解する	解剖生理学 I (人体の概要、消化器、呼吸器系)	1	30
	解剖生理学 II (循環器、血液、腎、内分泌系)	1	30
	解剖生理学 III (運動器、神経系)	1	30
	解剖生理学 IV (感覚器、生殖器、栄養と代謝)	1	15
	生化学	1	30
	栄養学	1	30
	生命活動演習	2	60
	(専門基礎分野 計)	22	585
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30
	病理学	1	30
	病態と治療学 I	1	30
	病態と治療学 II	1	30
	病態と治療学 III	1	30
	病態と治療学 IV	1	30
	病態と治療学 V	1	30
	薬理学	1	30
健康支援と社会保障制度	社会保障論	2	30
	公衆衛生論	1	15
	地域医療論	1	30
	関係法規	1	30
	保健医療論	1	15

専門分野			
	科目	単位	時間
基礎看護学	基礎看護学概論 I	1	30
	基礎看護学概論 II	1	15
	基礎看護技術 I (共通技術)	1	30
	基礎看護技術 II (フィジカルアセスメント)	2	45
	基礎看護技術 III (看護過程の展開)	1	15
	基礎看護技術 IV (環境調整・活動と休息の援助技術)	1	30
	基礎看護技術 V (清潔の援助技術)	1	30
	基礎看護技術 VI (食事と排泄・体温調節の援助技術)	1	30
	基礎看護技術 VII (生活援助技術ゼミナール)	1	30
	基礎看護技術 VIII (与薬の援助技術)	1	30
	基礎看護技術 IX (診察・検査時の援助技術)	1	30
	基礎看護技術 X (診療に伴う援助技術)	1	30
	(基礎看護学 計)	13	345

専門分野			
	科目	単位	時間
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論 I (地域に暮らす人々の理解)	1	15
	地域・在宅看護概論 II (地域に暮らす人々の健康と看護)	1	15
	地域・在宅看護概論 III (在宅看護概論)	1	15
	地域・在宅看護各論 I (在宅看護マネジメント)	1	15
	地域・在宅看護各論 II (在宅看護技術)	1	30
	地域・在宅看護各論 III (看護過程)	1	30
	(地域・在宅看護論 計)	6	120
成人看護学	成人看護学総論	1	30
	成人看護学各論 I (急性期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学各論 II (周術期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学各論 III (慢性期にある対象の看護) ①	1	30
	成人看護学各論 IV (慢性期にある対象の看護) ②	1	30
	成人看護学各論 V (終末期にある対象の看護)	1	30
	(成人看護学 計)	6	180
老年看護学	老年看護学総論	1	15
	老年看護学各論 I (老年期にある対象の理解)	1	15
	老年看護学各論 II (老年期にある対象の生活援助技術)	1	30
	老年看護学各論 III (看護過程)	1	30
	(老年看護学 計)	4	90
精神看護学	精神看護学総論	1	30
	精神看護学各論 I (精神保健の動向)	1	15
	精神看護学各論 II (精神障害の病態・治療と看護)	1	30
	精神看護学各論 III (看護過程)	1	15
	(精神看護学 計)	4	90
小児看護学	小児看護学総論	1	15
	小児看護学各論 I (小児期にある対象の理解)	1	15
	小児看護学各論 II (小児の疾患と看護)	1	30
	小児看護学各論 III (看護過程)	1	30
	(小児看護学 計)	4	90
母性看護学	母性看護学総論	1	15
	母性看護学各論 I (女性の健康と看護)	1	15
	母性看護学各論 II (周産期にある対象の看護)	1	30
	母性看護学各論 III (看護過程)	1	30
	(母性看護学 計)	4	90
看護の統合と実践	看護管理	1	30
	医療安全	1	15
	看護研究	1	30
	診療技術ゼミナール(看護の統合演習)	1	15
	(看護の統合と実践 計)	4	90
臨地実習	基礎看護学実習 I	1	45
	基礎看護学実習 II	1	45
	基礎看護学実習 III	2	90
	地域・在宅看護論実習 I	1	45
	地域・在宅看護論実習 II	2	90
	成人看護学実習 I	1	45
	成人看護学実習 II	3	135
	老年看護学実習 I	2	90
	老年看護学実習 II	2	90
	精神看護学実習	2	90
	小児看護学実習	2	90
	母性看護学実習	2	90
	統合実習	2	90
	(臨地実習 計)	23	1035
	専門分野 計	68	2130

合計	104	3060
----	-----	------

2025年 教育課程進捗表

[illegible]

教科外学習活動および学校行事

<学習交流集会>

全学生を縦割りにした分散会形式で、各学年の学びの交流を図る。

1年生は「基礎看護学実習Ⅱ期」、2年生は「成人看護学実習Ⅱ期」、3年生は「統合実習」のレポートを報告し、保護者、臨床指導者、講師の方々にも参加していただき交流する。

<体育祭>

スポーツを通して、学年間の交流と親睦を図るとともに、クラスの仲間作りを進める。学生自治会を中心に実行委員会を作り、学生が主体的に企画運営する。

<勤看祭>

自治会が中心となり学生が役割を担い、学年、クラスを越えた交流を図る。創造性豊かな取り組みを通し、クラスの仲間作りを進める。

<研修旅行>

地域医療論の学習の一環として沖縄での研修を通し「平和と医療」について学ぶ。

<防災訓練>

安全な避難訓練と初期消火の実際を学ぶとともに、安全に対する認識を高める。

<定期健康診断>

年1回行い、健康状態を把握する。

基礎分野 14 単位

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として幅広いものの見方、考え方を身につけるとともに、自己を含めて人間を深く理解し、知性と、感性豊かな人間として成長し看護を学ぶ土台を構築する分野として位置づける。

<科学的思考の基盤>

地域包括ケアの実践につながる人々の健康、暮らしの理解を1年次から学ぶために、3 年次に置いていた哲学入門を1年次に変更し、基本的人権擁護の立場で人間及び社会生活の見方考え方を深め、看護職者に求められる倫理的行動について学ぶ内容とする。

既習の生物学、化学の内容を精選し自然科学に統合し、臨床判断力につながる専門基礎科目修得につながる科目とする。

また現在、医療従事者の求められる情報通信情報の活用力及び、情報の取り扱いに関する倫理的行動を修得するために情報科学を基礎科目として位置付けた。

<人間と生活・社会の理解>

社会の歴史的発展と、社会的存在としての人間及び、生活をとらえる視点を学ぶために社会学、教育学を科目とする。

社会学は、各看護学の実習体験とも合わせて、看護の対象理解につなぐために3年次に設定する。

心理学は、人間関係における自己理解、他者理解の重要性と人間の心理的活動や行動を理解し人間についての理解するための基礎的理論を学び、コミュニケーション論は、人間理解に基づいたコミュニケーション技術を学ぶ科目とする。

また、多様な価値観を受け入れる感性と、人間性を養うことをねらいとして英語Ⅰ・Ⅱ、体育実技Ⅰ、芸術を科目とする。体育実技Ⅱについては、生涯を通じて、身体的、精神的健康づくりの意義を学ぶことを狙いとして3年次に設定する。

科目名		時間数	時期	授業概要	備考
科学的思考の基盤	哲学入門	1単位 30 時間	1 年前期	1.哲学の歴史を通して人間と哲学の関わりを学ぶ。 2.看護職に求められる、基本的人権を擁護する実践の基盤となる概念、及び倫理指針を学ぶ。	哲学入門、看護倫理の単元で構成する
	日本語表現	1単位 30 時間	1 年後期	1.論理的思考の基礎を学ぶ。 2.正しい日本語の理解と文章表現を学ぶ。	
	物理学概論	1単位 15 時間	1 年前期	看護実践における物理学現象の基礎を学ぶ。	
	自然科学	1単位 30 時間	1 年前期	1.人間の生命の基礎単位である細胞と、生命維持の基礎となる恒常性を学ぶ。 2. 専門基礎分野の生化学の基礎となる、物質の化学的性質や化学反応を学ぶ。	生物学概論、化学概論の単元で構成する
	情報科学	1単位 30 時間	1 年前期	医療情報の概念やシステムを学び、情報の管理に関する基礎知識を学ぶ。また医療従事者に必要なコンピューターリテラシー、ICTリテラシーを学ぶ。	

人間と生活・社会の理解

心理学	1単位 30 時間	1 年前期	1.心理学についての基礎知識を身につけ、他者理解を深める基礎を学ぶ。 2.人の心理、行動などの諸現象をとらえ実際の医療・看護場面において役立つ柔軟な思考力・行動力を身につける。	
コミュニケーション論	1単位 15 時間	1 年後期	1.人間関係におけるコミュニケーションの過程や構造、意義を理解し、よりよいコミュニケーションをとるためにはどのような知識やスキルを理解する。 2.体験型演習を通じて、医療・看護場面において効果的なコミュニケーション・スキルを身につける。	
教育学概論	1単位 30 時間	1 年後期	1.基本的人権としての人間の発達保障の理念とは何か教育権、学習権の歩みを通して学ぶ。 2.生涯発達し続ける人間の心理について理解し人間の発達の可能性と教育の関わりを学ぶ。	
社会学	1単位 30 時間	3 年前期	1.社会人としての必要な基本的知識の獲得と、考える力を身につけ看護師と必要となる社会学的な視点を学ぶ。 2.SDGsで提起されたテーマについて社会学的視点で考える。	
英語 I	1単位 30 時間	1 年前期	実践的英会話の学習を通じて、看護を国際的視野で研鑽していく基礎的力を養う。	
英語 II	1単位 30 時間	3 年前期	実践的英会話の学習を通じて、医療現場で使える英語力を養う。	
体育実技 I	1単位 30 時間	1 年前期	1.健康に学ぶ基礎的体力を養う。 2.スポーツ競技そのものの本質（面白さ）を理解・習得する。	
体育実技 II	1単位 15 時間	3 年前期	1.健康に学ぶ基礎的体力を養う。 2.ゲームの状況を確実に捉え、チームの集団行動に応じて各個人技術・戦術や集団戦術を理解・習得し、ゲームができるようになること。	
芸術	1単位 15 時間	1 年前期	芸術に触れ豊かな情操と感性を磨く。	

科目名	哲学入門	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位(30時間)	非常勤講師 水野 邦彦
	単元:哲学	時間数	20時間	
《学習目標》 哲学的な〈ものの考えかた〉を理解する。 根拠ある〈ものの考えかた〉を身につける。				
学習内容				授業方法
哲学とりわけ西洋哲学は、筋のおった合理的な考えかたを重んずる。 ふだん私たちは世の中で何気なく暮らしているが、私たちが世の中に接するときには主として〈知る〉〈おこなう〉〈感ずる〉という3つの関わりかたがあると、ある哲学者はいう。この3つの関わりかたをとおして、世の中と人間との関係、世の中によって方向づけられる人間のありかたを、掘り下げてゆきたい。 これらに関連して、私たちの考えかたや意識が、知らず知らずのうちに世の“常識”によって引きずられることも、講義では取りあげたい。				講義形式で進める
《テキスト》 とくに用いない、必要に応じてプリントを配付する。				
《評価方法》 配点:哲学70点、看護倫理30点				

科目名	哲学入門	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位(30時間)	専任教員 片岡 和江
	単元:看護倫理	時間数	10時間	
《学習目標》				
看護職者に求められる、倫理的行動の基礎となる概念や指針を学ぶ。				
学習内容				授業方法
第1講 倫理とは 1)倫理とは 2)倫理理論 3)職業倫理 4)生命倫理 第2講 生命倫理の歴史 生命倫理の原則 生命倫理と看護職の責務 第3講 性と生殖の生命倫理 1)性の生命倫理 2)生殖の生命倫理 第4講 死の生命倫理 先端医療と生命倫理 第5講 薬害問題と生命倫理 倫理問題に向き合うとき				講義形式 適宜グループワーク
《テキスト》				
系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				
《評価方法》				
筆記試験で評価する 配点:哲学70点 看護倫理30点				

科目名	日本語表現	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 栗田 敏明
		時間数	15時間	
《学習目標》				
1. レポートを作成するに当たり、論理的に文章を展開する技術を体得する。 2. 日常の言語活動を豊かにするための方法を会得する。				
学習内容				授業方法
1. 原稿用紙の使い方を理解する。 （パソコン入力の場合も、これに準じる） 2. 文章を書くに当たり、的確に意思表示ができるよう、論理的に叙述する方法を身につける。 3. 達意の文を書くための方策を身につける。 ア. 句読点の的確な打ち方を身につける。 イ. ほど良い長さの文と、おさまりの良い段落について学ぶ。 ウ. 適切な主語の使い方とやわらかい表現について学ぶ。 エ. リズム感を大切にするための方略を学ぶ。 オ. スムーズな文脈の文章について学ぶ。 カ. きちとした構成の文章を書く方法を学ぶ。 4. 語彙を豊かにするための訓練をする				講義を中心に実施する
《テキスト》 「文章作成のキーポイント」 八木 和久 著（米田出版）				
《評価方法》 講義が終了後、レポートを課し、それによって評価する				

科目名	物理学概論	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 田村 彰吾
		時間数	15時間	
《学習目標》				
1. 科学的な物の見方考え方を涵養する。 2. 基礎看護技術の基礎理論を理解する。 3. 様々な単位・濃度の考え方及び換算方法を修得する。 4. 看護師が取り扱う医療機器等の基礎理論と安全対策を修得する。				
学習内容				授業方法
1. 医療・看護に不可欠な様々な単位と換算方法について ～看護になぜ物理学が必要なの？～ 2. 体位変換を容易にする物理学的基礎理論について 3. 温度の定義、検温、冷電法・温電法の基礎理論について 4. 看護に必要な電気理論の基礎について 5. 血圧の単位と大気圧の関連性について 6. 酸素ボンベの取り扱いとガスの基礎理論について 7. 点滴の基礎理論について 8. 比重の考え方と血液・尿の比重について 9. 消毒と滅菌および加圧蒸気滅菌装置について 10. pHの定義と血液・尿のpHについて 11. 溶液の様々な濃度の表示方法と換算方法について 12. 浸透圧の考え方と血液透析の基礎理論について 13. 電磁波の種類と医療への応用について 14. 放射線の特性と医療への応用について 15. 看護に必要な物理学のまとめ				講義と演習を組み合わせた形式で双方向的授業を行う。
《テキスト》 講師の配布資料				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	自然科学	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位(30時間)	非常勤講師 岸田 久
	単元:生物	時間数	20時間	
《学習目標》				
1. 医療・看護の基礎を支える科目として生命仕組みを理解する。 2. 地球環境と生物学の関わりについて理解する。				
学習内容				授業方法
序章 生物学を学ぶにあたって A. 生物とは何か C. 看護と生物学 第1章 生命体のつくりとはたらき B. 細胞とその構造 C. 細胞の化学成分 D. 細胞膜の輸送 E. 細菌とウイルス 第2章 生体維持のエネルギー A. 生体内の化学反応 B. ATPの生合成 第3章 細胞の増殖とからだのなりたち A. 細胞分裂 B. 細胞の分化と個体のなりたち C.細胞の老化 第4章 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ A. 遺伝の法則と染色体 B. 遺伝情報の担い手 DNA C. DNAの複製 D. 遺伝情報の伝達RNA E.タンパク質の合成 翻訳 第5章 生殖と発生 A. 無性生殖と有性生殖 B. 動物の受精と発生 C.ほ乳類の発生 第6章 個体の調節 A. ホメオスタシス B. 各器官系のはたらき C. 神経性相関 D. 液性相関 第7章 刺激の受容と行動 A. 神経系における情報処理の特徴 B.環境の情報その受容 C. 神経系情報伝達 E.効果器のはたらき 第8章 生命の進化と多様性 A. 化学進化と生命の起源 C. 生物の分類と系統 D.ヒトの起源と進化 第9章 生物と環境のかかわり D. 生態系の物質循環 第10章 地球環境とヒトの共存 A. 人間活動による環境への影響 B. 生物多様性の保全				◎テキスト・ノートの有効活用を中心に効果的にプロジェクターを用いる ◎「考える」機会を多くする ◎練習問題・小テストを適時おこなう ◎自然観察ノートで「自然」を考える
《テキスト》				
系統看護学講座 基礎分野 生物学 高畑雅一男 著者代表 (医学書院)				
《評価方法》				
認定は筆記試験および提出物にて行う 試験配点(生物70点、化学30点)				

科目名	自然科学	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位(30時間)	非常勤講師 三好 敬一
	単元:化学	時間数	10時間	
《学習目標》 1. 物質の化学的性質や化学反応の基礎を学ぶ。 2. 専門基礎分野の生化学の基礎としても位置付ける。 3. 医療に関連した事項の化学的理解を深める。				
学習内容				授業方法
1. 原子(電子配置・イオン) 2. 化学結合(イオン結合、共有結合、金属結合) 3. 原子量・分子量・物質量 4. 気体(気体とは、圧力、大気圧、血圧) 5. 溶液(溶けるとは、溶液の濃度、気体の溶解)				・教科書、サブテキスト(プリント)、スライド(パワーポイント)を使用する。 ・ 初回にアンケートを行い、化学履修状況や関心の程度を把握する。 ・化学概論に関わる“話題”を取り上げ、理解を深める。 ・教授内容に関連した問題を用意し、理解を深める。
《テキスト》 系統看護学講座 基礎分野 化学 医学書院				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う 試験配点(生物70点、化学30点)				

科目名	情報科学	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 藤原 健祐
		時間数	30時間	
《学習目標》 1. 医療人として必要なコンピューターリテラシー、情報リテラシーを高める。 2. 医療情報の概念や倫理について理解する。 3. 医療におけるICT (Information and Communication Technology) の活用について説明できる。 4. 医療者側と患者側の間に介在する情報の非対称性を理解する。				
学習内容				授業方法
1. 医療情報の現状とICT (1) 身の回りの医療情報と活用 (2) 個人情報保護、情報漏洩、情報倫理 (3) 医療情報システム (4) 医療におけるICTと標準化 2. 情報と意思決定 (1) 情報とは何か、DIKWモデル (2) 医療における情報の非対称性 (3) 限定合理性、バイアスとヒューリスティクス 3. 情報の収集方法、オフィスソフト演習 (Word Power Point) (1) 文献検索の方法、EBM (2) レポート作成のためのWord活用 (機能と表現方法) (3) 情報発信のためのPowerPoint活用 (機能と表現方法) (4) 対象と目的に合わせた情報発信 4. 統計の基礎知識、オフィスソフト演習 (Excel) (1) 平均と標準偏差 (2) 相関と因果 (3) データ分析のためのExcel活用 (4) データの表現方法				講義形式 (グループワークあり) 講義形式 (グループワークあり) 演習形式 (PC室、事後課題あり) 演習形式 (PC室、事後課題あり)
《テキスト》 系統看護学講座 別巻 看護情報学 第3版 授業時に資料配布				
《評価方法》 筆記試験：60％ 講義への取り組み (出席・受講態度、課題の提出)：40％				

科目名	心理学	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 佐野 友泰
		時間数	30時間	
《学習目標》 心理学についての基礎知識を身につけ、自分自身の理解だけでなく、他者、とりわけ患者の気持ちの理解ができるようにする。幅広い観点から人の心理、行動などの諸現象をとらえ実際の医療・看護場面において役立つような柔軟な思考力・行動力を身につける。				
学習内容				授業方法
1. 心理学とは 2. 感覚と知覚 3. 思考・言語・知能 4. 知能検査実習 5. 学習 6. 感情と動機付け 7. 性格とパーソナリティ 8. 性格検査実習 9. 社会と集団 10. 発達 11. 発達検査実習 12. 子どもの心を理解するための共感性訓練 13. 心理臨床 14. カウンセリングの技法実習 15. 医療・看護と心理				毎回パワーポイントを使用して授業をします。
《テキスト》 系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院）				
《評価方法》 認定は出席状況・筆記試験にて行う				

科目名	コミュニケーション論	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 佐野 友泰
		時間数	15時間	
《学習目標》 人間関係におけるコミュニケーションの過程や構造、意義を理解し、よりよいコミュニケーションをとるためにはどのような知識やスキルが必要かを考える。 体験型演習を通じて、医療・看護現場において効果的なコミュニケーション・スキルを身につける。				
学習内容				授業方法
1. 親しくない人とのコミュニケーション1 2. 親しくない人とのコミュニケーション2 3. 雑談の技法 4. 非言語的コミュニケーション 5. 集団におけるコミュニケーション 6. 興味のない話題でも適切に聴く練習 7. 上手な自己主張のために 8. コミュニケーション促進のために アンガー・マネジメント				・教科書は特に指定しません ・体験演習を取り入れながら、討議形式で進めます。
《テキスト》 授業時資料配布				
《評価方法》 出席状況とレポートにて評価する				

科目名	社会学	時期	3年	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 小内 浩
		時間数	30時間	
《学習目標》				
1. 社会人としての必要な基本的知識の獲得と、考える力を身につける ①日本国憲法を学び、理解を深める ②社会人として社会のかかわりを学び考える 2. 看護師として必要となる社会学的な視点を学ぶ ①社会学的視点から疾病観、患者・利用者観を学び、深める ②看護師としての役割発揮をする上での社会とのかかわりを学び考える 3. 現代的で、実践的なテーマについて、社会学的な視点で考える ①SDGsで提起された世界的規模で検討されているテーマの理解を深める ②コロナ・パンデミックを経て注目されていた社会テーマの理解を深める				
学習内容				授業方法
社会人、看護師として、働き生きていく上で、必要となる基本的な知識を、社会学的な視点で考える力を身につけていけるよう、現代的で実践的なテーマを設定して、授業を行う。 現代的なテーマについては、SDGsで提起された課題を基本として、世界的動向と日本の実態を、日本国憲法を基軸に学び、当事者からの生の声を重視して学び深めていけるようにする。				・講義はパワーポイントを使用する。 ・プリントも配布する ・教科書は特に指定しない。
導入- Ⅰ 貧困・格差を社会学的視点で考える ①貧困・格差の実態 - 医療の現場から考える ②当事者の声から貧困・格差を考える Ⅱ ジェンダー不平等を社会学的視点で考える ①ジェンダー不平等の実態 - 日常生活から考える ②当事者の声からジェンダー(LGBTQ)問題を考える Ⅲ 戦争・平和を社会学的視点で考える ①戦争・平和の実態 ②当事者の声から戦争を考える Ⅳ 気候危機を社会学的視点で考える ①気候危機の実態 ②気候危機を打開する当事者の声から考える Ⅴ 臨床現場で活かす社会学的視点 ①疾病観 - 健康の社会的決定要因 ②ケアの社会学 - 共同のいとなみ ③職場・多職種協働 まとめ				
《テキスト》				
授業で参考文献(主に文庫・親書を中心に)紹介し、理解を深められるようにする あたらしい憲法のはなし				
《評価方法》				
認定はレポートにて行う				

科目名	英語Ⅰ	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 遠藤 愛
		時間数	30時間	
《学習目標》				
「読む・書く・聞く・話す」の4技能を学習し、医療現場等で実践的に使える英語力を養う。				
学習内容				授業方法
1. 医療・看護をテーマにしたテキストを使用し、専門的な語彙・表現を学びます。 2. 1を応用し、医療現場で生かすことの出来る会話表現を学びます。 3. 看護がスムーズに行えるよう、文化の違いを学びます。 *上記1～3により、実践にむけてOutput Skill（speaking, writing）、Input Skill(listening, reading)、Communication Skill を高めます。 【学習課題】 指摘する学習語彙・実践的な表現を覚えること。 辞書を持参して下さい。				テキストに沿って授業を行います。
《テキスト》				
ホスピタル・イングリッシュVital Signs Essential English for Healthcare Professionals				（南雲堂）
《評価方法》				
課題（20％）、筆記試験（80％）で評価する				

科目名	英語Ⅱ	時期	3年	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 遠藤 愛
		時間数	30時間	
《学習目標》				
「読む・書く・聞く・話す」の4技能を学習し、医療現場等で実践的に使える英語力を養う。				
学習内容				授業方法
1. 医療・看護をテーマにしたテキストに使用し、専門的な語彙・表現を学びます。 2. 1. を応用し、医療現場で生かすことの出来る会話表現を学びます。 3. 医療現場に関する長文読解を行い、知識を深めます。 *上記1～3により、実践にむけてOutput Skill (speaking, writing)、Input Skill(listening, reading)、Communication Skill を高めます。 【学習課題】 指摘する学習語彙・実践的な表現を覚えること。 辞書を持参して下さい。				テキストに沿って授業を行います。
《テキスト》				
『 First Aid ! English for Nursing 』(金星堂)				
《評価方法》				
課題(20%)、筆記試験(80%)で評価する				

科目名	体育実技 I	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位(時間)	非常勤講師 李 鋭利
		時間数	30時間	
《学習目標》				
1. スポーツ競技そのものの本質を理解し、卓球・バドミントン・バスケットボール競技において、その競技に当てはまる技術(合理的・合目的・経済的な動き)・戦術を認識・習得する。 2. ゲームの状況を確実に捉え、それに対する技術や戦術を認識・理解し、ゲームができるようになること。				
学習内容				授業方法
1. 卓球においては、各個別技術すなわち、サーブ、サーブレシーブ(無回転サーブ、回転サーブ及びそれらに対応したサーブレシーブ)、ラリー、スマッシュを理解・習得する。そしてゲームの状況を確実に捉え相手の打法に応じた行動＝対応技術を習得し、ゲームができるようにする。(時間割:3割) 2. バドミントンにおいては、各個別技術すなわち、サーブ、レシーブ、ラリー、スマッシュを理解・習得し、ゲームができるようにする。(時間割:3割) 3. バスケットボールにおいては、基本的な技術(ドリブル・シュート・パス・リバウンド・ディフェンス・フットワーク・ジャンプ)を習得し、ゲームができるようにする。(時間割:3割) 4. 副教材:太極拳《24式太極拳》＝ 簡化太極拳(時間割:1割) (資料配布)				授業方法: 1.師範法 2.説明法 3.練習法 練習方法: 1.一斉練習 2.個別指導 授業方法: 1.師範法 2.説明法 3.練習法
《教育内容と教材》				
本授業においては、学習目標を達成するために、攻撃・守備の各個別技術・戦術を理解・習得できる内容を選択し、教材を構成する。				
《評価方法》				
学生は各種目の個別技術や戦術において授業内容の60%以上を達成した場合、認定とする。 太極拳は評価にしない。				

科目名	芸術	時期	1年	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 村場 辰彦
		時間数	15時間	
《学習目標》				
1. 音楽を通して自己の内面の表現、喜びを集団で分かち合う 2. 豊かな情操と感性を磨く				
学習内容				授業方法
楽しんで音楽することにより、人間として生きるための豊かな感性を養う。 1. 校歌と全日本民医連の歌の練習 2. 校歌と全日本民医連の歌の収録 3. DVDによる音楽鑑賞 4. 和太鼓演奏体験(ワークショップ) 5. 芸術鑑賞				・鑑賞後、感想文の提出 ・大講堂での演奏体験では体育の授業に準じた服装で参加すること。
《学習課題》				
皆と気持ちを合わせて音楽できるようになること				
《評価方法》				
授業・鑑賞会の出席・参加の状況(70%)、芸術鑑賞の感想文(30%)にて総合評価する				

専門基礎分野 22 単位

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる分野である。

基礎科目の学習と関連させながら人間の生命活動をとらえ、専門的な知識の習得や臨地実習とも統合して、看護の必要性の判断、根拠を持った看護を実践する基盤を作る。また対象を社会的視点からとらえるとともに、保健医療福祉の視点から看護の役割を考える基礎を培う分野として位置づける。

人体の機能と構造を系統的に理解するための解剖生理学を構造化した。また人間の生命活動を学び、生命観を深めるとともに、人体を系統立てて理解し、健康、疾病、障害に対する理解を深めるとともに、主体的な学習を促す科目として生命活動演習を科目として設定する。

生化学、栄養学、微生物学、病理学、臨床における診断過程、治療の実際を内容とする病態と治療学を科目設定し、看護実践に求められる臨床判断力を培う内容とする。

また対象を社会的存在としてとらえ、対象の生活と社会保障制度の関わりを学び、社会資源の活用と多くの専門職と連携・協働し、看護職としての役割を発揮する力を養っていくために、社会保障論、地域医療論、関係法規などの科目を設定する。

病態と治療学は、講義内容を整理し、病態と治療学Ⅳは外科治療に係る内容に再編した。また病態と治療学Ⅴはコメディカルによる集学的治療の実践を学ぶ内容とした。

新設科目の保健医療論は現在の医療をめぐる現状や諸課題にも目を向け、社会保障論、地域医療論とともに地域包括ケアを担う看護職に必要な基本的な能力を養う科目とする。

公衆衛生論は、今日の感染症対策等の諸課題も含めた公衆衛生の歴史と役割を学ぶ内容とする。

科目名	時間数	時期	授業概要	備考
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ (人体の概要、消化器、呼吸器)	1 単位 30 時間	1 年前期	人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。(人体の概要、消化器系、呼吸器系)
	解剖生理学Ⅱ (循環器、血液、腎、内分泌系)	1 単位 30 時間	1 年前期	人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。(循環器系、血液と体液、腎泌尿器、内分泌系)
	解剖生理学Ⅲ (運動器、神経系、感覚器)	1 単位 30 時間	1 年前期	人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。(骨と関節、筋、神経系)
	解剖生理学Ⅳ (感覚器、生殖器、成長と老化)	1 単位 15 時間	1 年後期	人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。(感覚器系、生殖器系、栄養と代謝)
	生化学	1 単位 30 時間	1 年後期	生体を構成する成分や物質及びそれらの機能と化学的変化などの生命現象を学ぶ。
				解剖生理、栄養学と関連させて教授する。

	栄養学	1単位 30 時間	1 年後期	人間の生命活動の源としての保健 栄養学と治療の一環としての病態 栄養学の基礎を学ぶ。	生化学との 関連や病態 と治療、食 事療法の基 礎として教 授する。
	生命活動演習	2単位 60 時間	1 年後期	1.人間の生命活動を形態(解剖 学)、物理学的機能(生理学)、 化学的機能(生化学・栄養学)の 統合としてとらえるように学ぶ。 2.人体の恒常性維持機能を把握 し、さらに自然治癒能力の理解 を深める。	専門基礎分 野の教育内 容を統合的 な演習を通 じて教授す る。
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1単位 30 時間	1 年後期	1.微生物の生態と人体の関わりに ついて理解する。 2.人間との共存と人体への病理的 影響に鑑み、感染予防の観点か ら消毒・滅菌の基礎となる知識を 学ぶ。	生物学と関 連させ、病 理学及び疾 患の基礎知 識として教 授する。
	病理学	1 単位 30 時間	1 年後期	疾病や傷害の要因及び、形態や 機能への影響を学び、臨床症状を 観察できる基礎的知識を学ぶ。	解剖生理、 微生物学と の関連で教 授する。
	薬理学	1単位 30 時間	1 年後期	1.薬物の性状及び作用または薬物 による薬理的配合変化について 基礎的知識を学ぶ。 2.薬物による副作用の予防や早期 発見に関わる看護の役割につ いて学ぶ。	
	病態と治療学Ⅰ	1単位 30 時間	1 年後期	呼吸器、消化器疾患、循環器、内 分泌疾患の病態と検査・治療につ いて学ぶ。	病理学と関 連させ教授 する。
	病態と治療学Ⅱ	1単位 30 時間	1 年後期	脳神経疾患、リウマチ膠原病、血 液疾患、脳血管疾患の病態と検 査・治療について学ぶ。	
	病態と治療学Ⅲ	1単位 30 時間	1 年後期	運動器疾患、眼科疾患、耳鼻科疾 患、皮膚科疾、歯科疾患、泌尿 器、女性生殖器疾患の病態と検 査・治療について学ぶ。	
	病態と治療学Ⅳ	1単位 30 時間	2 年前期	1. 外科治療の総論、消化器、循 環器、呼吸器、甲状腺疾患の外科 治療について学ぶ 2. 麻酔法及び BLS について学ぶ	

	病態と治療学Ⅴ	1単位 30 時間	2 年前期	放射線療法、リハビリテーション療法、臨床検査について学ぶ	
健康支援と社会保障制度	公衆衛生論	1単位 15 時間	2 年後期	保健医療福祉の視点から社会福祉、公衆衛生について学ぶ。	憲法の生存権保障の理念との関連で教授する。
	地域医療論	1単位 30 時間	2 年後期	地域における医療実践を通して、地域医療の在り方を学ぶ。	
	社会保障論	2 単位 30 時間	3 年前期	1.歴史的に発展してきた社会保障の理念の変遷をとらえる。 2.働く人々、高齢者、母子の社会保障について学ぶ。	憲法の理念、関係法規、地域医療論との関連で教授する。
	関係法規	1単位 30 時間	3 年前期	憲法25条の精神の具体化としての保健・医療関係の法規を学ぶ。	社会保障論との関連で学ぶ。
	保健医療論	1単位 15 時間	1 年後期	1.医学と医療の歴史と関連について学ぶ 2. 医療をめぐる現状と課題をとらえる。	

科目名	解剖生理学Ⅰ (人体の概要・消化器・呼吸器)	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	校長 塩川 哲男
		時間数	30時間	
看護の対象となる人間の生命、身体を理解を深めるために、一般病院での医師としての臨床経験を基盤に、解剖生理の基礎知識を解説する。				
《学習目標》 人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合し科学的に理解する				
学習内容				授業方法
1. 生命、生物とは何か ～解剖生理学を学ぶための基礎知識～ 1) 人体とは 2) 細胞と組織 2. 身体の構造と機能 人体の概要:器官と区分 3. 消化器系:食物摂取と消化、吸収、排泄の仕組み 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 2) 腹部消化管の機能と構造(胃・小腸・大腸) 3) 膵臓・肝臓・胆道系の構造と機能 4) 腹膜 4. 呼吸器系:酸素摂取と二酸化炭素排出の意義と仕組み 呼吸の働き 1) 呼吸器の構造(上気道・下気道) 2) 呼吸(呼吸運動・ガス交換・肺循環) 3) 呼吸の調節 4) 呼吸系の病態生理(換気障害・拡散障害・換気血流不均等)				模型、スライドを使用しながら進める。
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	解剖生理学Ⅱ (循環器・血液・腎・内分泌系)	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 医師 及川 恒之
		時間数	30時間	
《学習目標》				
人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。				
学習内容				授業方法
1. 血液の組成と機能 1) 血液の組成と働き 2) 血液の凝固 3) 血液型 2. 血液の循環とその調整 身体末端まで血液・リンパ液を送る仕組み 1) 循環器系の構造 2) 心臓の構造 3) 心臓の拍出の機能 4) 血管の構造と機能 5) 血圧の調節 3. 体液の調節と尿の生成 物質の運搬と身体保護や調節を行う仕組み 1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路 3) 体液の調節 4. 内臓機能の調整 内分泌系:ホルモンによる内部環境を整える仕組み 1) 自律神経による調節 2) 内分泌による調節 3) ホルモン分泌の調節 4) ホルモンによる調節の実際 (糖代謝、カルシウム代謝、乳汁分泌、血圧調節)				講義形式で進める。 模型、スライドを使用しながら進める。
《テキスト》				
系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
《評価方法》				
認定は筆記試験にて行う				

科目名	解剖生理学Ⅲ (運動器・神経系・感覚器)	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 医師 及川 恒之
		時間数	30時間	
《学習目標》				
人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。				
学習内容				授業方法
1. 運動器系の仕組みと働き 身体の支持作用とそれらの連結の仕組み 1) 骨格とは 2) 骨格筋 3) 体幹の骨格と筋 4) 上肢の骨格と筋 5) 下肢の骨格と筋 6) 頭頸部の骨格と筋 7) 筋収縮の仕組み 2. 神経系の仕組みと働き 1) 情報の収集と伝達、さらに判断の構造・仕組み 2) 神経の構造と機能 3) 脊髄と脳 4) 脳の高次機能 5) 運動器と下行伝道路 6) 感覚器と上行伝道路 7) 眼の構造と機能 8) 耳の構造と機能 9) 味覚・嗅覚 10) 疼痛				模型、スライドを使用しながら進める。
《テキスト》				
系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
《評価方法》				
認定は筆記試験にて行う				

科目名	解剖生理学Ⅳ (生体防御・生殖器・成長と老化)	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 医師 及川 恒之
		時間数	15時間	
《学習目標》 人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。				
学習内容				授業方法
1. 外部からの防御 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体防御機構 3) 非特異的防御機構 4) 特異的防御機構 5) 体温調節の仕組み 2. 生殖・発生と老化の仕組み 生殖器系:子孫を残す構造と仕組み 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 受精と胎児の発生 4) 成長と老化				模型、スライドを使用しながら進める。
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	生化学	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 三好 敬一
		時間数	30時間	
《学習目標》				
1. 理論化学・有機化学の基礎を学ぶ。 2. 生体を構成する物質について学ぶ。 3. その物質の生体内変化(代謝)について学ぶ。 4. 遺伝情報とその発現について学ぶ。				
学習内容				授業方法
第0部 生化学を学ぶための理論化学・有機化学 ① 溶液の性質(沸点上昇、凝固点降下、浸透圧) ② 酸と塩基(酸・塩基の定義、pH、塩、緩衝溶液) ③ コロイド、酸化と還元(コロイドの定義・性質、酸化還元反応の定義) ④ 飽和炭化水素、不飽和炭化水素、芳香族炭化水素 ⑤ 官能基、異性体 第1部 生体を構成する物質とその代謝 ⑥ 生化学を学ぶための基礎知識 ⑦ 酵素・補酵素 ⑧ 糖質の構造と機能 ⑨ 糖質代謝 ⑩ 脂質の構造と機能 ⑪ 脂質代謝 ⑫ タンパク質の構造と機能 ⑬ タンパク質代謝 第2部 遺伝情報とその発現 ⑭ 遺伝子と核酸 ⑮ 遺伝子の複製・修復・組み換え、転写、翻訳				① 教科書とともにサブテキスト(プリント)とスライド(パワーポイント)を使用する。 ② 生化学に関わる“話題”を取り上げ、理解を深める。 ③ 教授内容に関連した問題を用意し、理解を深める。
《テキスト》				
系統看護学講座 化学 (医学書院)				
系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院)				
《評価方法》				
認定は筆記試験・レポートにて行う				

科目名	生命活動演習	時期	1年後期	担当講師
		単位数	2単位	1学年担任 他
		時間数	60時間	
I. 目的 長い歴史の中で進化してきた人間の生命をつかさどる仕組みと働きを学び、健康に生きようとする力をとらえ、看護の対象を理解する基盤をつくる II. 目標 1. 担当したテーマに関する生命活動の仕組みや働きがわかる。 2. 担当したテーマが人間の恒常性維持機能に果たしている役割が理解できる。 3. 学習したことを説明できるまで学ぶ。 4. テーマを深めるために、個人が学習を進め、主体的に集団学習に取り組む。 5. グループ全員が学習したことを共有できる。 6. ゼミナールに主体的に参加し他のテーマについても学びあう。 III. 課題テーマと学習内容 1. 循環の仕組みと働き 2. 呼吸の仕組みと働き 3. 消化吸収・代謝の仕組みと働き 4. 内分泌系と血糖調整の仕組みと働き 5. 尿生成と排尿の仕組みと働き 6. からだの動く仕組みと働き 7. からだを守る免疫の仕組みと働き 8. 脳と神経の仕組みと働き IV. 学習方法 1. 課題テーマ毎にグループを編成する。 学びたい課題テーマの希望と理由を出し合いグループ編成を行う。(各4～5名) 各グループにリーダー、サブリーダーをおく。 2. グループで1課題テーマに取り組む。(GWは個人学習を事前に行い臨むことが前提) V. ゼミナール 1. 発表時間は 1グループ40分、質疑応答20分で計60分 2. グループで事前に読み合わせを行い、発表時間(40分)を守る。				
《参考文献》 系統看護学講座 解剖生理学/病態生理学/生化学/栄養学/基礎看護技術/成人看護学(各疾患)/老年看護 病態疾患論/リハビリテーション看護 目で見える体のメカニズム/絵で見る呼吸と循環/絵で見る脳と神経/絵で見る免疫/免疫 からだを護る不思議なくみ身体の仕組みと働き/食べたいを支える看護/図解 生理学 他				
《評価方法》 学習目標「生命活動の理解」「学び方の獲得」の視点で評価。 評価の対象:レポート、個人学習(学習ノート)、演習記録用紙、個人振り返り用紙 グループワークやゼミナールへの参加状況				

科目名	微生物学	時期	1年前期	担当講師
		単位数	1単位	臨床検査技師 西出 和弘 畠山 美幸 清水 雄介
		時間数	30時間	
一般病院で検査部門において臨床検査技師としての実践を基盤に、微生物と人間、病原体や感染症やその予防・治療などに関する基礎知識を解説する				
《学習目標》 1. 病原微生物を中心にその生態を学び、微生物とヒトとの関りを理解する 2. 病原体や感染症に関する各種情報を、教科書等で理解し、実際の看護活動に応用できる知識とする 3. 病原微生物による感染症とその予防・治療、および感染症に打ち勝つ生体防御の機序について理解する				
学習内容				授業方法
1. 微生物と微生物学 微生物の特徴・微生物と人間・微生物学の歩み 2. 細菌の性質 細菌の形態と特徴・培養環境と栄養・細菌の遺伝・常在細菌叢 3. 真菌の性質 真菌の形態と特徴・真菌の増殖・栄養と培養 4. 原虫の性質 5. ウイルスの性質 ウイルスの構造と特徴・ウイルスの増殖・ウイルスの分類 6. 感染と感染症 微生物感染の機構 感染の成立から発症・治癒まで 細菌感染の機構 真菌感染の機構・原虫感染の機構 ウイルス感染の機構 7. 感染に対する生体防御機構 自然免疫・獲得免疫 8. 感染源・感染経路からみた感染症 9. 滅菌と消毒 10. 感染症の検査と診断 11. 感染症の治療 抗細菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬 12. 感染症の現状と対策 感染症の変遷・感染症の現状と問題点 (院内感染と対策の実際～ICTチーム) 13. 病原細菌と細菌感染症 14. 病原真菌と真菌感染症 15. 病原原虫と原虫感染症 16. 病原ウイルスとウイルス感染症				講義形式で進める
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学 (医学書院)				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	病理学	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	医師 八代 真一 伊藤真理子 松田 玲奈
		時間数	30時間	
病院における診断部門の医師、臨床検査技師としての実践を基盤に、病理診断の実際と役割について解説する				
《学習目標》 疾病や傷害の要因及び、疾病障害による形態や機能への影響を学び、臨床症状を観察できる基礎的知識を学ぶ				
学習内容				授業方法
I 病理学総論と付章 1. 病理学とは ①疾病の原因と分類 ②診断 2. 先天異常 ①先天異常とは ②遺伝性疾患、染色体異常による疾患、胎児障害 3. 代謝障害 4. 循環障害 5. 炎症と免疫、膠原病 6. 感染症 7. 腫瘍 8. 老化と死 II 病理学各論 1. 循環器疾患― 奇形、虚血生心疾患など 2. 血液・造血器疾患― 貧血、白血病など 3. 呼吸器疾患― 肺炎、閉塞性・拘束性肺疾患、肺腫瘍、胸膜疾患 4. 消化器疾患― 口腔・食道・腸・腹膜・肝臓・胆道・膵臓疾患 5. 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患 6. 内分泌系疾患― 下垂体・副腎皮質・甲状腺疾患、糖尿病など 7. 脳・神経・筋肉系疾患― 脳神経系の循環障害・感染症・ 変性疾患・腫瘍、筋ジストロフィー、筋無力症 8. 骨・関節系疾患― 骨折・骨粗鬆症・骨腫瘍・ヘルニア・関節リウマチ 9. 耳・目・皮膚疾患				講義形式で進める *解剖生理学、微生物との関連で学ぶ
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学（医学書院）				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	薬理学	時期	1年	担当講師
		単位数	1単位	薬剤師 北見 淳一 澤谷 真希
		時間数	30時間	
一般病院および保健薬局での薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床で使用される各種製剤の実際、薬物療法における留意すべき点などを解説する				
《学習目標》				
1. 薬物を生体に与えた時の吸収および排泄、薬理作用や副作用などの基礎知識を学ぶ。				
2. 薬物による副作用の予防や早期発見に関わる看護の役割について学ぶ。				
学習内容				授業方法
I 薬理学総論 薬理学とは ① 「薬って何だろう」 ② 薬理作用について ③ 薬の副作用について 薬害について ※各種製剤の実際 剤型など様々な種類の製剤 ※倍数計算練習 II 薬物の医療事故(与薬事故) 生命に直結する危険な薬剤について(なぜ危険なのかその根拠) ① カリウム製剤の静脈注射の危険性 ② インスリンの単位の誤りの危険 ③ キシロカイン・ネオフィリン・セルシンの急速静脈注射の危険性 ④ 麻薬の単位の誤りによる危険性 III 薬理学各論 1. 抗生物質、感染症治療薬、消毒薬 2. 免疫治療薬(ヒト免疫グロブリン製剤、インターフェロン、ワクチン) 3. 自律神経薬(交感神経・副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局部麻酔薬) 4. 中枢神経系薬(全身麻酔薬、抗精神病薬、全身麻薬性鎮痛薬など) 5. 心・血管系薬(強心薬、利尿薬) 6. 呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物喘息治療・消化性潰瘍治療薬 7. 物質代謝に作用する薬物(ホルモン・ホルモン拮抗薬、ビタミン) 糖尿病治療薬、ホルモン 8. 抗ガン薬 抗ガン作用のしくみ				講義形式で進める。 授業内容をプリントで補足する。 臨床で実際に起きている与薬事故から、間違えると生命維持に危険性がある薬物と取り上げ、その危険性を理解する。 授業の進度をみて小テストで復習し知識を確認する。
《テキスト》				
系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)				
系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院)				
《評価方法》				
認定は筆記試験にて行う				

科目名	病態と治療学Ⅰ	時期	1年後期	担当講師	
		単位数	1単位	医師 釼持 喜之 塩川 哲男	
		時間数	30時間	奥山 道記 伊古田明美 他	
一般病院での医師としての実践経験を基盤に、基礎知識を解説する					
《学習目標》 呼吸器、消化器疾患、循環器疾患、内分泌疾患の病態と治療について理解する					
学習内容				授業方法	
【単元1】呼吸器疾患の病態と治療について（8時間） 1) 総論：呼吸器の生理と機能(肺機能の分類、酸塩基平衡) 2) 検査と治療処置：肺機能検査、血ガス、ph、XP、 気管切開・挿管手術、放射線療法、化学療法、薬物療法、酸素療法 3) 病態・治療：感染症(かぜ・肺炎・結核)、 気道疾患(喘息・慢性閉塞性肺疾患—肺気腫・気管支拡張症)、 気胸、肺塞栓、肺腫瘍は疫学・診断・治療・予防 (肺癌・上大静脈／ホルネル症候群・パネコースト腫瘍) 4) 呼吸不全：呼吸不全の定義、低酸素血症の機序、治療(HOT)				講義形式で進める	
【単元2】消化器疾患の病態と治療（8時間） 1) 胃・十二指腸疾患、胆石症、イレウス、肝炎・肝硬変・肝臓癌、 食道癌、胃癌、大腸癌などを中心に病態の理解 2) 検査治療は潜血検査、消化管造影検査、肝生検、内視鏡、 腹部エコー、薬物手術療法					
【単元3】循環器疾患の病態と治療について（8時間） 1) 総論：循環器の生理と機能 2) 検査：心電図、心臓カテーテル、心エコー、酵素、CVP 3) 病態・治療：虚血性心疾患、弁膜症、心不全、高血圧、 動脈系疾患を中心に不整脈、胸部症状、ショックなどの症状					
【単元4】内分泌疾患の病態と治療（6時間） 1) 内分泌器官とホルモンの働き 2) 糖尿病 3) 先端巨大症・クッシング病・バセドウ病・橋本病・ クッシング症候群、(高脂血症、痛風) 4) 検査：ホルモン検査、ヨード検査、糖負荷試験、 5) 治療：インスリン療法、食事・運動療法 6) 治療薬として使われているホルモン剤					
《テキスト》					
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学	[2] 呼吸器	(医学書院)
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学	[5] 消化器	(医学書院)
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学	[3] 循環	(医学書院)
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学	[6] 内分泌・代謝	(医学書院)
《評価方法》					
認定は筆記試験にて行う					

科目名	病態と治療学Ⅱ	時期	1年後期	担当講師	
		単位数	1単位	校長 塩川 哲男	
		時間数	30時間	医師 伊古田俊夫 桂川 高雄 佐賀 智之 他	
一般病院での医師としての実践経験を基盤に、基礎知識を解説する					
《学習目標》 脳神経、脳血管、アレルギー・膠原病、腎疾患の病態と治療について理解できる					
学習内容				授業方法	
【单元1】 脳神経疾患の病態と治療 (6時間) 1) 脳神経の解剖生理、病態生理 2) 脳血管障害、変性疾患、感染症、末梢神経障害、認知症 【单元2】 脳血管疾患の病態と治療 (6時間) 1) 脳外科手術の適応と診断 2) くも膜下出血、高血圧性脳出血、心原性脳梗塞 【单元3】 アレルギー・膠原病の病態と治療 (6時間) 1) 免疫とは、アレルギー性疾患、自己抗体とは 2) 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、アミロイドーシス、血管炎、強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群 【单元4】 腎疾患の病態と治療 (6時間) 1) 総論: 腎臓の解剖生理・検査、水・電解質バランス、酸塩基平衡 2) 病態と処置、検査: 電解質異常、各種腎疾患 (IgA腎症、ネフローゼ、糖尿病性腎症) 腎不全と腎機能検査、腎生検 3) 治療: 安静・減塩・利尿・降圧・ステロイド治療、血液透析を中心に 【单元5】 血液・造血器疾患の病態と治療 (6時間) 1) 総論: 血液の成分、血液型と輸血、血液成分の欠乏とその症状 2) 病態と処置、検査: 腫瘍性疾患 (白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の治療、鉄欠乏性貧血)、再生不良性貧血、紫斑病、血友病など 3) 治療: 化学療法 (抗がん剤)、造血幹細胞移植				講義形式で進める	
				スライドを使用して視覚にもはたらきかける	
《テキスト》					
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[7] 脳・神経	膠原病 感染症 (医学書院)	
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[8] 腎・泌尿器		
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[11] アレルギー		
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[4] 血液・造血器		
《評価方法》					
認定は筆記試験にて行う					

科目名	病態と治療学Ⅲ	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	医師 中田 幸夫 劔持 靖子 白取 健一 土屋 芳治 鈴木 龍弘 長島 香 歯科医師 森 真理 他
		時間数	30時間	
一般病院での医師としての実践経験を基盤に、基礎知識を解説する				
《学習目標》 運動器疾患、感覚器疾患、歯科疾患、泌尿器、女性生殖器疾患の病態と治療について理解する。				
学習内容				授業方法
【単元1】運動器疾患の病態と治療（10時間） 1) 主要疾患の症状について理解する。 関節痛・関節拘縮・腰痛・運動機能障害・知覚障害・可動域制限 2) 検査・診断法について理解する 関節鏡・造影検査 3) 主な治療法について理解する ギブス固定・牽引・穿刺法・手術療法 【単元2】皮膚科疾患の病態と治療（4時間） 皮膚の構造と機能、熱傷、アトピー、褥創、伝染性皮膚炎など 皮膚反応テスト、スキンケア、薬物・ステロイド療法 【単元3】耳鼻科疾患の病態と治療（4時間） 耳・鼻の構造と機能、外・中・内耳炎、メニエール病、アレルギー、 咽頭・喉頭がん、ポリプ吸入、減感作、ステロイド、手術療法など 【単元4】眼科疾患の病態と治療（4時間） 目の構造と機能、流行性結膜炎、近・遠・弱視、眼底出血、白内障、 緑内障、網膜症、網膜剥離 薬物・点眼・レーザー・手術療法、光凝固、眼鏡など 【単元5】歯科疾患の病態と治療（4時間） 齲歯、歯髄炎、歯周炎、口内炎、口腔癌 補綴の種類、適応、義歯の取扱、小児・矯正・予防歯科 【単元6】泌尿器疾患の病態と治療（2時間） 1) 尿路感染 2) 機能障害 3) 尿路外傷 4) 尿路結石 5) 尿路腫瘍 6) 先天異常 【単元7】女性生殖器疾患の病態と治療（2時間） 1) 女性生殖器の機能的疾患 2) 女性生殖器疾患患者に行われる診察・検査と治療・処置				講義形式で進める スライドやパワーポイントを使用し視覚での学習も併用する
《テキスト》 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎泌尿器〔9〕女性生殖器〔10〕運動器 〔12〕皮膚〔13〕眼〔14〕耳鼻咽喉〔15〕歯・口腔（医学書院）				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	病態と治療学Ⅳ	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	医師 細川 誉至雄
		時間数	30時間	樫山 基矢 田尾 嘉浩 山川 智士 古明地 恭子 他
一般病院での医師としての実践経験を基盤に、基礎知識を解説する				
《学習目標》 1. 外科治療の総論、消化器、循環器、呼吸器、甲状腺疾患の外科治療について理解する 2. 麻酔法について理解する 3. BLS実施の基礎力を修得する				
学習内容				授業方法
【単元1】 1) 手術療法(外科総論) (6時間) ① 外科の歴史、医師の倫理指針 ② 手術侵襲と生体反応 ③ 体液管理、酸塩基平衡 ④ 栄養管理(高カロリー輸液、末梢静脈栄養、経腸栄養法) ⑤ 創傷管理、臓器移植 2) 消化器疾患の手術療法:急性腹症 (8時間) 上部消化管(胃切除、食道再建術) 下部消化管(大腸切除、人工肛門造設) 肝臓・胆のう・すい臓(肝臓切除、胆管結石切除術) 3) 呼吸器・心血管疾患の外科的治療 (4時間) ① 肺がんの病態と外科治療 ② 心臓・血管疾患の病態と外科治療 4) 乳腺、甲状腺疾患の外科治療について (2時間) ① 乳がんの病態と治療 ② 甲状腺疾患の病態と治療				講義形式で進める スライドやパワーポイントを使用し視覚での学習も併用する
【単元2】 麻酔法 (10時間) 1) 麻酔学総論 2) 全身麻酔(吸入麻酔、静脈麻酔、筋弛緩剤) 3) 局所麻酔 4) 脊椎麻酔と硬膜外麻酔の共通点・相違点、ペインクリニック 5) 輸血療法 6) 呼吸不全と酸素療法、ショック 7) CPR(心肺蘇生法)講義と演習				
《テキスト》 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	病態と治療学Ⅴ	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師
		時間数	30時間	放射線技師 大西 健児 理学療法士 山下 太一 臨床検査技師 齊藤なつみ 他
一般病院での医師としての実践経験を基盤に、基礎知識を解説する 《学習目標》 放射線療法、リハビリテーション療法、臨床検査について理解する。				
学習内容				授業方法
【単元1】放射線療法 (8時間) 1) 放射線治療について 2) CT検査:CTの基礎、単純CTと造影CT 造影剤について(副作用と造影剤の予備テスト) 3) RI検査:放射線同位元素について、RI検査の被爆、放射性 医薬品、RI検査室の管理 4) MRI検査:MRIの安全面に関する事項、検査の内容、禁忌事項 5) TVレントゲンの検査 【単元2】リハビリテーション (12時間) 1) リハビリテーションとは 2) 作業療法 3) 理学療法 4) 言語聴覚療法 【単元3】臨床検査 (10時間) 1) 臨床検査とその役割 2) 臨床検査の流れと看護師の役割 3) 化学検査、免疫・血清検査、ホルモン検査、一般検査、血液検査、 病理検査、生理検査				講義形式で進める
《テキスト》 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院)				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	社会保障論	時期	3年	担当講師
		単位数	2単位	非常勤講師 行沢 剛 藤田幸司 加藤 琢也 水上 寿恵
		時間数	30時間	
一般病院で社会福祉士としての実践を基盤に、歴史的に発展してきた社会保障の理念、現代における課題、働く人々、高齢者、母子の社会保障について事例を用いた演習などを行い基礎知識を解説する 《学習目標》 1. 歴史的に発展してきた社会保障の理念の変遷をとらえる。 2. 働く人々、高齢者、母子の社会保障について学ぶ。 3. 世界と日本の比較で社会保障を学ぶ。				
学習内容				授業方法
1. 現代の社会問題と社会福祉 2. 社会保障の成立とあゆみ(欧米)ー 福祉の理念と医療制度 北欧5ヶ国、スウェーデンを中心とする先進的福祉国家の歴史を知る。 欧米と日本の医療保障制度を比較し理解する 3. 社会保障の成立とあゆみ(日本) 歴史の中で発展してきた社会保障制度を国民の生活の場面から理解する。 日本の社会保障制度の現在と今後の見通し 4. 医療保険制度 社会保障に基づく医療保障制度と医療保険の現状と課題 雇用保険・労災保険 5. 生活保護法 制度の目的、3つの基本原理と4つの原則、8つの扶助、生活保護費の計算 6. 老人保健法 歴史と制度 7. 介護保険制度 8. 精神保健福祉 歴史の流れと現行制度の課題 9. 老人福祉法 10. 児童・母子福祉 11. 身体障がい福祉 障がいとは何か 障がいをもって生きるとは 障がい者福祉の発展と経過、障がい者基本法と障がいプラン、 ノーマライゼーションの思想、障がい者の定義と実態、在宅・施設福祉施策 12. 年金制度 歴史と制度 13. ソーシャルワーク論 ソーシャルワーク援助技術 看護師との連携 14. 演習： 事例提供を行い、1事例を学生5人でグループワークし、文献検索公共機関への訪問などを通して、利用可能な社会資源について調べ報告会を行い、学習を共有する 事例)身体障がい者の在宅生活支援、精神障がい者の自立支援、老年者の介護・医療保障、ひとり親の子育て支援、障がい児の発達保障、生活保護受給者の扶助の実際など				・講義形式で進める ・憲法の理念、関係法規、地域医療論との関連で理解する。 ・福祉・介護分野を充実し新しい情報も授業に組み入れていく。 <

科目名	公衆衛生論 (健康と公衆衛生)	時期	2年前期	担当講師
		単位数	1単位	非常勤講師 志渡 晃一
		時間数	15時間	
《学習目標》 総合保健医療・看護の視点から社会福祉、公衆衛生について学ぶ。				
学習内容				授業方法
1. 導入 地域医療の概念 2. 公衆衛生の基礎を理解する 1) 公衆衛生と地域保健、地域医療 2) 公衆衛生と環境保健				講義形式で進める ・憲法の生存権保障の 理念との関連で学ぶ ・公衆衛生活動が健康 づくりをどのように支援 しているのか理解する
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生（医学書院）				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	地域医療論	時期	2年	担当講師
		単位数	1単位	副校長 花田 未希子
		時間数	30時間	
《学習目標》				
1. 北海道内の医療活動の実践を通して、地域医療の在り方を学ぶ 2. 沖縄の医療の変遷や現状を知り地域医療について学ぶ 3. 沖縄の歴史や現在の人々の暮らしについて学び「平和と医療」について考える				
学習内容				授業方法
I. 北海道の地域医療の実際について考える。 （12時間） ・北海道の歴史、医療の変遷や現状を知り地域医療について考える。 ・地域の人々の生活や健康の状態を理解する。 ① 北海道の歴史と現状 事前課題の交流 ② 道内各地域の医療、看護実践 				

科目名	関係法規	時期	年	担当講師
		単位数	1単位	事務長 田沢 裕一 専任教員 片岡 和江
		時間数	30時間	
《学習目標》				
憲法第25条の精神の具体化としての保健・医療関係の法規を学ぶ。 看護職者の基本法としての保健師助産師看護師法について理解する。				
学習内容				授業方法
1. 「社会福祉」、社会保障制度との関連で法律の理念や考え方について学ぶ。 2. 医療提供機関と医療従事者に関する関係法規を理解する。 (1) 医事法規(特に医師法、医療法、他職種関係資格法) (2) 保健衛生法 (3) 薬事法その他 3. 保健師助産師看護師法の目的、義務、看護師の定義の法的位置付けと業について理解する 4. 看護師等の人材確保の促進に関する法律について理解する。 5. 生活者の生活問題に関する法律について理解する 社会保障論と関連して ①労働基準法 ②雇用保険法 ③労働者災害保険法 他 保健予防活動に関する法律の理念を学ぶ ①予防衛生法規 ②環境衛生法規 ③公害関係法規 ④その他 * 関係法規ごとに、歴史的背景と法改正の要点などを資料等で確認しながら学ぶ。 ・特に保健師助産師看護師法については、正確な理解を深める。医療過誤と看護師の法的責任についてなど医療看護の安全性に関連付けて学ぶ。 ・社会で起きている事象や利用者や患者の直面している事実と関連づけて学ぶ。 ・関係法規の条文の正確な理解を深める				・演習問題を使用して習得する。 ・利用者、患者の具体的な事例から理解を深める。 ・適宜ミニテストなどで知識の確認を行いながら進める
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令（医学書院）				
《参考文献》 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会福祉（医学書院） 国民衛生の動向				
《評価方法》 認定は筆記試験にて行う				

科目名	保健医療論	時期	1年後期	担当講師
		単位数	1単位	校 長 塩川 哲男
		時間数	15時間	
《学習目標》				
1. 医学、医療の基礎的概念と歴史の変遷を学ぶ				
2. 医療の平等とあり方について考える				
学習内容				授業方法
1. 医学と医療 日野原重明氏の残したもの POS(問題志向システム)と診療記録 患者の権利、インフォームド・コンセント				講義形式で進める
2. 医学の歴史を学ぼう 古代、中世、近世、現代				
3. 健康と病気 健康とは 健康の社会的決定要因 貧困と格差 病気とは 病気の原因・診断・治療				
4. 公害と医療 水俣病に学ぶ				
5. 国際医療・難民医療				
6. 戦争と医学・医療				
7. まとめ 安楽死 尊厳死 平穏死 患者さんと患者様				
《テキスト》				
健康支援と社会保障制度① 医療概論 第1版 (医学書院)				
《評価方法》				
筆記試験とレポート				

専門分野 68単位

専門分野は、「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の6つの看護学と「地域・在宅看護論」及び「看護の統合と実践」から構成される。

基礎看護学において、看護の概念や役割を学ぶ、各看護学においては、人間の生涯を通じた各期における特徴と健康問題を明らかにし、その多様なニーズを踏まえながら、対象に応じた看護実践ができる基礎的能力を育成する分野として位置づける。科目設定に当たっては、各領域の総論で対象の発達課題と特性および看護の役割を教授する。

新設された「地域・在宅看護論」においては、様々な健康レベルにある対象が、地域・在宅で、その人らしく、安心して暮らし、療養を続けることを支援するための基礎的な看護実践力を身につけ、多職種と協働・連携のもとに地域包括ケアを実践する基礎力の習得を目指す。また基礎看護学とともに全領域の基盤となる位置づけとする。

1年次から講義と臨地実習を連動させながら、社会の様々な要因によって影響を受ける対象の健康状態と健康へのニーズを解決していく基礎力を修得する内容とする。

そして各看護学、看護論の学びを統合し、チーム医療および多職種との協働の中で、看護マネジメントできる基礎的能力と臨床実践能力を養う内容とする。

<基礎看護学> 13単位

基礎看護学は、看護の概念や歴史、役割を学ぶとともに、対象の状況に応じた安全で安楽な看護を提供するために必要な基礎看護技術、看護過程を学び各領域の学習の基礎とする。

基礎看護学概論Ⅰ、Ⅱでは、看護の基本となる「人間・健康・看護」の概念について学び、看護の対象である人間を生活史からとらえ、生涯を通じて成長する存在であることを解説する。また、障害のとらえ方の変化、社会的要因により健康の格差が生じている事実、医療において人権が侵害された歴史的事実について学ぶ。新設する地域・在宅看護論とともに、すべての人々が健康で安心した生活をおくれる社会、地域のあり方や多職種連携の看護について解説し、看護観を形成する基盤となるよう位置付ける。

基礎看護技術は10科目で構成した。「共通技術、生活援助技術、看護過程の展開」について1年次に位置づけ、「診療や検査にかかわる援助技術」については2年次とした。「看護過程の展開」はこれまで2年次前期に実施していたが、「基礎看護学実習Ⅱ」の前（1年次前期）に移行し、看護プロセスの基礎を解説し、その後の臨地実習や他の看護学の学習を重ね臨床判断や実践力につなげる。技術演習は、新たに「検体採取と取り扱い」「検査の介助」「創傷処置」を実施し、看護実践力を強化する。

科目名	時間数		授業概要
基礎看護学概論Ⅰ	1単位 30時間	1年 前期	看護の基本となる概念（人間、健康、看護）を深め、看護を学ぶこと意義と、学び方を学ぶ。
基礎看護学概論Ⅱ	1単位 15時間	1年 前期	看護の発展と、基本的人権としての健康権、医療権と看護の役割を学ぶ。
基礎看護技術Ⅰ （共通技術）	1単位 30時間	1年 前期	1. 看護技術の特性および学び方を学ぶ。 2. 対象との信頼関係を構築し、安全で安楽な看護を提供する基盤となるコミュニケーション技術、感

			染防御技術を学ぶ。
基礎看護技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	2 単位 45 時間	1 年 前期	看護に観察の意義と必要性を理解し、対象の身体状況をとらえる観察技術とアセスメント力を養い、健康状態に応じた看護を判断する基盤を学ぶ。
基礎看護技術Ⅲ (看護過程の展開)	1 単位 15 時間	1 年 前期	看護過程の意義と、展開の基礎を学ぶ。
基礎看護技術Ⅳ (環境調整・活動と休息の援助技術)	1 単位 30 時間	1 年 前期	1. 健康生活の維持や疾患の回復のために、生活環境の果たす役割と環境調整の実際を学ぶ。 2. 活動と休息が対象に与える影響と援助の実際を学ぶ。
基礎看護技術Ⅴ (清潔の援助技術)	1 単位 30 時間	1 年 前期	清潔の意義を理解し、対象の個別性に応じた安全、安楽な清潔の援助を実施する基礎を学ぶ。
基礎看護技術Ⅵ (食事と排泄・体温調整の援助技術)	1 単位 30 時間	1 年 前期	1. 生命活動を維持し、その人らしく生活するための栄養と食事、排泄の意義と援助の基礎を学ぶ。 2. 自立的体温調節のしくみと、安全で効果的な電法の技術の基礎を学ぶ。
基礎看護技術Ⅶ (日常生活援助技術ゼミナール)	1 単位 30 時間	1 年 後期	1. 対象の個別性に応じた日常生活援助を実践するための基礎を学ぶ。 2. 協同学習を通じて、安全で安楽な基礎看護技術について相互に学び、発展させる姿勢を養う。
基礎看護技術Ⅷ (与薬の援助技術)	1 単位 30 時間	2 年 前期	薬物療法における看護師の役割を理解し、安全に与薬を実施するための基礎的知識、援助方法を学ぶ。
基礎看護技術Ⅸ (診察・検査時の援助技術)	1 単位 30 時間	2 年 後期	1. 診察における看護師の役割を学ぶ。 2. 看護師が行う検査の基礎及び検体の取り扱いと、検査を受ける対象の看護の基礎を学ぶ。
基礎看護技術Ⅹ (診療に伴う援助技術)	1 単位 15 時間	2 年 後期	1. 医療機器による治療を受ける対象の看護の基礎を学ぶ。 2. 創傷処置及び管理に必要な基礎を学ぶ。

<地域・在宅看護論> 6 単位

急速に進む高齢化を背景に、高齢者に限らず、地域で暮らすすべての人々が、疾病や障害があっても生活の質を維持し、可能な限り住み慣れた地域で暮らしを続けられるように、地域包括ケアシステムの構築が推進されている。「地域・在宅看護論」では、療養者を含めた地域で暮らす人々を対象ととらえ、地域とその人々への理解と、そこで行われる看護活動、多職種連携を学ぶ位置づけとする。

地域・在宅看護概論Ⅰ、Ⅱでは、対象の理解として暮らしの基本構造、多様な価値観、健康、暮らしがあることを解説し、人々の健康が社会背景に影響されていることを理解し、地域で暮らす人々が安心して暮らせるための看護を学ぶ。また地域の健康保健活動、まちづくりの必要性を解説する。

概論Ⅲおよび各論では、地域で療養する人々とその家族の理解を深め、対象が在宅でその人らしく安心して療養を継続できるよう支援するための基礎的な看護実践力を身につけ、保健医療福祉の協働の中で看護の役割について学ぶ内容とした。

科目名	時間数	時期	授業概要
地域・在宅看護論Ⅰ (地域に暮らす人々の理解)	1 単位 15 時間	1 年 後期	「暮らし」の基本構造と、多様性をとらえ、環境や暮らしが健康に与える影響と、看護の役割を学ぶ。
地域・在宅看護論Ⅱ (地域に暮らす人々の健康と看護)	1 単位 15 時間	1 年 後期	地域で暮らす人々の健康と暮らしを支える、健康保健活動と街づくりについて理解を深める。
地域・在宅看護論Ⅲ (在宅看護概論)	1 単位 15 時間	2 年 前期	1. 地域で疾病や障害を抱えながら生活する対象と家族を理解する。 2. 在宅看護の特徴と看護師の役割を学ぶ。 3. 対象が地域や在宅で療養し続けるための保健・医療・福祉における多職種との連携・協働の必要性を学ぶ
地域・在宅看護各論Ⅰ (在宅看護マネジメント)	1 単位 15 時間	2 年 後期	1. 地域の保健医療福祉の実態と地域包括ケアシステムの基礎を学ぶ 2. 退院支援と継続看護の意義とマネジメントの実際を学ぶ。
地域・在宅看護各論Ⅱ (在宅看護技術)	1 単位 30 時間	2 年 後期	在宅で療養する対象と家族を支援する基本技術を学ぶ。
地域・在宅看護各論Ⅲ (看護過程)	1 単位 30 時間	2 年 後期	在宅療養者と家族の看護過程を学ぶ。

<成人看護学> 6 単位

成人期は、10 歳代後半から 60 歳代前半という人生の大半時期にあたり、職業選択や家庭を築くなど様々な経験から自立・自律し成熟していく時期であり、社会的な役割も大きい。急速に進む我が国の少子高齢社会や家族構成の変化、女性の社会進出によって家庭での役割は変化している。また新自由主義政策のもと労働者の雇用形態や賃金の格差が拡大し、健康への影響は大きい。情報化の中で多様な価値観、多様な生活スタイルが生まれ健康への関心が高まる一方で、公的保障の不十分さは健康の格差を拡大している。

成人看護学では、成人期の対象の特徴や多様な健康問題に関する課題を総合的にとらえることが求められる。また、健康の格差を生み出している背景に問題意識を持ち、健康の社会的決定要因にも触れながら対象をとらえる視点を養う。また、対象がセルフケアを目指し、健康の維持増進、疾病予防、治療過程における日常生活支援、終末期における全人的ケアまで、広範囲にわたる看護の知識や援助方法を教授する。また、教授方法では事例を用いた演習を取り入れ、臨床判断能力を強化するよう位置付ける。演習を看護実践においては、保健医療福祉チームの一員として多職種との連携し継続看護がなされるように健康上の課題を解決し、対象の意思決定を尊重する看護の必要性を学ぶ。

科目名	時間数	時期	授業概要
成人看護学総論	1 単位 30 時間	1 年 後期	成人期にある対象と健康状態を、生活と労働の視点でとらえ、健康の保持増進と疾病予防のための看護を学ぶ。

成人看護学各論Ⅰ (急性期にある対象の看護)	1単位 30時間	2年前期	1. 急性期の治療の特徴や看護について学ぶ 2. 健康の危機状態にある成人患者と家族をとらえ、看護について学ぶ。
成人看護学各論Ⅱ (周術期にある対象の看護)	1単位 30時間	2年前期	1. 手術療法とその看護について学ぶ。 2. 周術期にある成人患者とその家族をとらえ、看護について学ぶ。
成人看護学各論Ⅲ 慢性期にある対象の看護 1	1単位 30時間	2年前期	1. 慢性期の治療の特徴や看護について学ぶ。 2. 慢性期にある成人患者と家族をとらえ、看護について学ぶ。
成人看護学各論Ⅳ 慢性期にある対象の看護 2	1単位 30時間	2年前期	慢性期にあり自宅で療養する成人患者とその家族をとらえ、看護について学ぶ。
成人看護学各論Ⅴ (終末期にある対象の看護)	1単位 30時間	2年後期	1. 終末期の治療の特徴や看護について学ぶ 2. 終末期にある成人患者と家族をとらえ、看護について学ぶ。

<老年看護学> 4単位

老年期にある対象（高齢者）は、人生において豊かな体験を持ち、社会を支えてきた存在として尊重されると同時に、加齢による生理的変化に加え、成人期から連続する社会的決定要因によって様々な健康問題をかかえるという側面を持つ。高齢者の看護は、その特性をふまえて、個人としての人権が擁護され、自立した生活が送れるように支援することが重要である。

老年看護学においては、老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を科学的にとらえるとともに、老年期にある対象の健康障害の特徴をふまえ、健康の保持、増進及び疾病を予防する看護を学ぶ内容とする。同時に、わが国の保健・医療・福祉の状況をふまえ、あらゆる暮らしの場において老年期にある対象の健康権を保障する保健、医療、福祉のマネジメント、対象及び家族の自己決定支援について学ぶ内容とする。

科目名	時間数	時期	授業概要
老年看護学総論	1単位 15時間	2年前期	1. 老年期にある対象の生活と健康問題を理解し、看護の役割を学ぶ。 2. 老年期にある対象を支える保健・医療・福祉の連携と看護師役割を学ぶ。 3. 老年にある対象の権利擁護と意思決定について学ぶ。
老年看護学各論Ⅰ (老年期にある対象の理解)	1単位 15時間	2年前期	1. 加齢に伴う心身の変化と健康障害の特徴を学び、看護の対象を理解する。 2. 加齢に伴う心身の変化、健康障害による身体及び生活への影響を学ぶ。 老年期にある対象の健康を維持増進する課題を探究する。

老年看護学各論Ⅱ (老年期の対象の生活 援助技術)	1 単位 30 時間	2 年 後期	1. 老年期にある対象の健康障害と生活に及ぼす影響 をアセスメントする基礎を学ぶ。 2. 老年にある対象の基本的人権を擁護する生活援助 技術を学ぶ。
老年看護学各論Ⅲ (看護過程)	1 単位 30 時間	2 年 後期	1. 老年期にある対象の看護過程の基礎となる知識と、 看護過程の実際を学ぶ。 2. 老年期にある対象の基本的人権を擁護する、意思決 定支援、継続看護の役割を学ぶ。

<精神看護学> 4単位

現代社会は、不安定な雇用形態の増加による経済格差、職場や教育現場における競争の激化といじめ問題などの人間関係、または地域や家族の問題など、心の健康の課題はあらゆる人々に起こりうる。

近年における我が国の精神保健福祉対策として在院日数の短縮、地域の状況に応じた精神保健福祉サービスの構築が進められ、精神保健福祉看護を取り巻く環境も大きく変化し、精神看護の役割は複雑かつ多様になってきている。

精神看護学は、精神疾患を持つ患者の看護だけではなく、現代社会に生活している人々がかかえる心の問題や、「生きにくさ」を明らかにし、ライフサイクルと生活の場から、心の健康維持増進のための援助、当事者中心の看護ケア、精神障害者や家族に対する看護の役割を学ばないようとする。

科目名	時間数	時期	授業概要
精神看護学総論	1 単位 30 時間	2 年前期	1. 精神保健医療・看護の歴史的変遷と現状を学び、精神障害者の人権尊重の重要性と精神保健医療看護のあり方、今後の課題について考える。 2. 精神障害者と家族の理解を深め、治療の有意性と精神看護の特徴、機能と役割について学ぶ。 3. 人間の健康を心、身体、社会との関連で総合的に理解し、心の健康を維持するために必要な知識・技術について学ぶ。
精神看護学各論Ⅰ (精神保健の動向)	1 単位 15 時間	2 年前期	精神保健の動向と看護、保健活動の役割を学ぶ。
精神看護学各論Ⅱ (精神障害の病態・ 治療と看護)	1 単位 30 時間	2 年前期	精神障害の病態と治療、健康を回復する看護の役割を学ぶ。
精神看護学各論Ⅲ (看護過程)	1 単位 15 時間	3 年前期	精神の健康障害をもつ人の看護過程を学ぶ。

<小児看護学> 4単位

小児看護は、小児の健全な発達をめざして、発達段階をふまえたかわり、小児をめぐる社会、家族の状況を視野に入れて、疾病や障害をもつ小児と家族を支援することが求められる。さらに近年は地域で暮らす一人ひとりの子どもの健康や生活を守る視点が強く求められる。

科目設定に当たっては、家族の変化や小児をめぐる社会的課題にも目を向けながら、対象理解と看護の役割、小児保健の役割を学ぶとともに、小児の病態を科学的にとらえ、健康回復を支援する看護を学ぶ内容とする。

そしてすべての子どもの健やかな成長・発達を支援する看護の役割について考える内容とする。

科目名	時間数	時期	授業概要
小児看護学総論	1単位 15時間	2年前期	1. 小児期の特徴と、子ども観、家族観を養う。 2. 小児と家族を取り巻く社会状況、健康の諸問題と保健医療施策を学ぶ。
小児看護学各論Ⅰ (小児期にある対象の理解)	1単位 15時間	2年前期	1. 子どもの成長と発達を理解し看護の役割を学ぶ。 2. 発達段階に応じた養育、子どもと家族を取り巻く環境について学ぶ。
小児看護学各論Ⅱ (小児の疾患と看護)	1単位 30時間	2年後期	1. 小児期の疾患の病態と治療を学び、健康回復を促進する看護を学ぶ。 2. 疾患による対象と家族への影響をとらえて看護の役割を学ぶ。
小児看護学各論Ⅲ (看護過程)	1単位 30時間	3年前期	小児期にある対象の看護過程を学ぶ。

<母性看護学> 4単位

女性を取り巻く環境は時代の変遷とともに大きく変化し、母性看護の役割も拡大しており、母性が健全に発揮できるように、女性の一生を通じて健康の維持、増進、疾病の予防に係る支援が求められている。

また次世代をになう子どもが健やかに育つためには、早期から切れ目のない継続した支援が重要である。

母性看護学では、看護の対象を妊産婦とその子ども、女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもを育てる家族、その家族を取り巻く地域社会まで広くとらえる内容を学ぶものとする。

周産期における母子の身体的、社会的特徴をとらえ、次世代の新しい生命を生み育てるための妊娠期からの継続した支援や地域連携など視野を広げて学ぶとともに、女性を広くライフサイクルの視点からとらえ、女性特有の健康問題と看護についても深く学ぶことができる内容とする。

科目名	時間数		授業概要
母性看護学総論	1単位 15時間	2年前期	女性の一生を通じた母性の健康増進を目出し、母性看護を实践する基盤となる看護の考えや、看護の役割を学ぶ。

母性看護学各論Ⅰ (女性の健康と看護)	1 単位 15 時間	2 年 前期	女性のライフサイクル各期の健康問題や疾患を理解し看護について学ぶ。
母性看護学各論Ⅱ (周産期にある対象の看護)	1 単位 30 時間	2 年 後期	周産期ある対象の健康問題を理解し、看護・保健活動を学び、看護実践につながる基礎的知識を身につける。
母性看護学各論Ⅲ (看護過程)	1 単位 30 時間	3 年 前期	周産期の看護実践に活かすことができるよう看護過程の基礎を理解する。母子への継続看護、地域や多職種連携の実際から母性看護の役割を学ぶ。

＜看護の統合と実践＞ 4 単位

「看護の統合と実践」では、これまでの学習を統合しつつ、チーム医療および多職種との連協・協働の中で、看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップを理解するとともに、看護マネジメントできる基礎的能力を養う内容とする。同時に、看護の役割を国際的な視野でとらえる国際看護、近年の災害の増加に対応する看護の役割を学ぶ。

また、保健医療福祉チームにおける看護の役割を学ぶ、看護管理の実際と看護チームの一員として安全な医療、看護を提供するための判断力、実践力の基礎を培い、看護師として生涯学び続ける姿勢を養う内容とする。

科目	時間数	時期	概要
看護管理	1 単位 30 時間	3 年 後期	1. チームおよび他職種との協働の中で看護師としてマネジメントできる基礎的能力を養う。 2. 看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。 3. ひろがる看護の活動領域として、災害看護、国際看護の特徴について学ぶ。
医療安全	1 単位 15 時間	3 年 後期	1. 医療安全の意義と、事故事例分析から、看護事故の危険要因を知り、事故防止の考え方について学ぶ。 2. 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を身につける。
看護研究	1 単位 30 時間	3 年 後期	1. 専門職業人として看護研究の必要性と基礎的知識を学ぶ。 2. 3. 事例研究に取り組み、相互の学びあいを通して、研究的態度を養い、人権擁護の立場に立つ看護観を高める。
診療技術 ゼミナール (看護の統合演習)	1 単位 15 時間	3 年 後期	1. 原理原則に基づき安全な診療技術の実施について、事例・状況設定に応じた知識、技術の評価を行う。

<臨地実習 23単位>

科目	単位	時期	実習目的・目標
基礎看護学 実習Ⅰ	1単位 45時間	1年 前期	実習目的 看護実践の場である病院や患者さんについて知り、看護について考える。 実習目標 1. 看護が実践されている病院について知る。 2. 患者さんが療養する場としての病院を知る。 3. 看護師の仕事について知る。 4. 連携して働く他職種について知る。 5. 地域におけるまちづくりについて知る。
基礎看護学 実習Ⅱ	1単位 45時間	1年 前期	実習目的 看護の対象である患者を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術を習得する。 実習目標 1. 看護の対象である患者を理解する必要性と、その方法について学ぶ。 2. 既修の看護技術について、安全・安楽に実施する。 3. 実習を通して、看護について考える。
基礎看護学 実習Ⅲ	2単位 90時間	1年 後期	実習目的 看護の対象である患者を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術を習得する。 実習目標 1. 病気が患者にどのような影響を及ぼしているかを理解する。 2. 患者が受けている検査や治療について理解する。 3. 患者に行われている看護援助について理解する。 4. 患者に必要な看護援助を、指導を受け安全・安楽に実施する。 5. 医療や看護に対する患者の願いや期待を理解する。 6. 実習を通して、看護について考える機会とする。 7. グループの中で自分の考えや意見を述べ、学び合うことができる。
地域・在宅 看護論実習 Ⅰ	1単位 45時間	2年 前期	実習目的 地域で様々な暮らし方をしている人々と接し、生活者としての対象の理解を深めるとともに、多様な場における看護について考えることができる。 実習目標 1. 地域でのさまざまな人々の暮らしや活動を支えるために、どのような支援があるのかを知る。 2. 地域・生活の場で療養している人と家族の生活の実際を知り、地域・在宅で暮らすとはどういうことなのか考えることができる。

地域・在宅 看護論実習 Ⅱ	2 単位 45 時間	3 年 前期	実習目的 病気や障害と向き合い地域・在宅で療養している対象とその家族の願いをとらえ基本的人権を護る在宅看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 地域・在宅で疾病や障害を持ちながら生活している対象を理解する。 2. 地域・在宅で療養する対象と家族の願いをとらえる。 3. 地域・在宅で療養する対象と家族を支援する看護計画を立案し、指導のもと実践する。 4. 在宅療養を支援する継続看護の役割を理解する。 5. 対象が地域・在宅で療養を続けるための医療・福祉・介護における社会資源や多職種連携について理解する。
成人看護学 実習Ⅰ	1 単位 45 時間	2 年 前期	実習目的 成人期にある対象の特徴を理解し、対象の基本的人権を護る看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 通院しながら療養する対象を生活と労働の視点でとらえ、成人期の健康問題について理解する。 2. 対象の病気や障害の回復を応援する安全で科学的な看護技術を習得する。 3. 対象との信頼関係を築き、看護援助するためのコミュニケーションをとることができる。 4. グループの中で自分の考えや意見を述べ、学びあうことができる。
成人看護学 実習Ⅱ	3 単位 135 時間	2 年 前期	実習目的 成人期にある対象の特徴を理解し、看護展開する力を身につけ、対象の基本的人権を護る看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 対象の病気や障害をこれまでの生活とのかかわりでとらえ、成人期の健康障害について理解する。 2. 成人期にある対象の看護過程を学び、看護チームの指導を受けながら実践する。 3. 対象の病気や障害の回復を応援する安全で科学的な看護技術を習得する。 4. 対象との信頼関係を築き看護援助するためのコミュニケーションがとれる。 5. グループの中で自分の考えや意見を述べ、学び合うことができる。

老年看護学 実習Ⅰ	2 単位 90 時間	2 年 後期	実習目的 老年期にある対象の特徴とその家族を理解し、対象の病気や障害に応じて看護展開する力を身につけ、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 生活史や背景、加齢による変化を学び老年期にある対象を理解する。 2. 老年期にある対象の複雑で多様な病態を理解し、対象の健康障害・生活障害に応じた看護過程を学ぶ。 3. 老年期にある対象の医療や看護への願いや期待を知り、人権を尊重した援助を行う。 4. 老年期にある対象を支える家族の課題を知り、援助を考える。
老年看護学 実習Ⅱ	2 単位 90 時間	3 年 前期	実習目的 老年期にある対象の特徴とその家族を理解し、対象の病気や障害に応じて看護展開する力を身につけ、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 生活史や背景、加齢による変化を学び老年期にある対象を理解する。 2. 老年期にある対象の複雑で多様な病態を理解し、対象の健康障害・生活障害に応じた看護過程を学び、看護チームとともに実践する。 3. 老年期にある対象の医療や看護への願いや期待を知り、人権を尊重した援助を行う。 4. 老年期にある対象と家族の意思決定支援について考える。 5. 老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の役割や連携の実際を知り、その中での看護の役割を学ぶ。
精神看護学 実習	2 単位 90 時間	3 年 前期	実習目的 精神障害の理解を深め、精神障害を持つ対象に看護展開する力を身につけ、基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 精神に障害をもつ患者をとらえ、回復を支援する治療や看護について理解する。 2. 対象の日常生活の自立を支援する看護の必要性を明らかにし、看護計画の立案を通して、看護過程を学ぶ。 3. 精神に障害をもつ対象の社会復帰を支援する活動の実際を学ぶ。

小児看護学 実習	2 単位 90 時間	3 年 前期	実習目的 小児期にある対象の特徴とその家族を理解し、成長・発達段階、健康障害に応じた基本的人権を護る看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 小児の成長・発達を理解する。 2. 小児との関わりを通して、生活行動や遊びを理解する。 3. 小児の保健行動獲得の支援と健康管理の実際について学ぶ。 4. 小児期の疾患の特徴と病態を理解する。 5. 小児期の対象と家族の看護上の問題をとらえ看護の必要性を理解する。 6. 小児の人権や発達を保障する環境や関わりについて学ぶ。 7. 小児の健康障害が家族に与える影響をとらえ、保健・医療・福祉に対する願いや期待を理解する。
母性看護学 実習	2 単位 90 時間	3 年 前期	実習目的 周産期にある対象の特徴を理解するとともに、女性の生涯にわたる健康について考え、母性看護における対象の基本的人権を護る看護の役割を学ぶ。 実習目標 1. 妊娠・分娩・産褥期の生理的变化を観察し、各期を援助する看護の役割、保健指導の実際を学ぶ。 2. 新生児の生理的变化、発達について観察し看護について理解する。 3. 妊娠・分娩・育児を通して児と母が育ち合い成長していくための看護の役割を学ぶ。 4. 母性保健に関連した制度や社会資源の活用について理解する。 5. 女性の生涯における健康障害とその看護について理解する。 6. 生命誕生の過程を学び、生命の尊厳について考える。
統合実習	2 単位 90 時間	3 年 後期	実習目的 既習の知識、技術、態度を統合し、対象の基本的人権を護る看護の役割を学び、看護実践力を身につける。 実習目標 1. 看護管理及び保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能について理解できる。 2. 入退院支援および地域連携の実際から看護の役割について理解できる。 3. 多職種連携の実際から看護師の役割について理解できる 4. 学内演習において複数患者の優先順位を考えた行動計画を立案し、チームで連携し状況に応じた看護を考えることができる。 5. SDHの視点で対象の健康を捉え臨床判断を行う基礎的能力を養う。 6. 3年間の学びを統合し、自己の看護観を深めることができる。

科目名	基礎看護学概論Ⅰ	時期	1年前期	講義担当者 副校長 花田 未希子
		単位数	1単位	
		時間数	30時間(15回)	
《事前学習》以下の参考文献を読了し、感想文を提出する。 ①フローレンス・ナイチンゲール:「看護覚書き」日本看護協会出版会 ②ヴァージニア・ヘンダーソン:「看護の基本となるもの」				
看護師としての実践を基盤に、看護の動向や実際、看護の概念を解説し、健康、看護の対象をとらえる視点を広げる。				
《学習目的》 看護に関する主要な概念を学び、看護について考える。				
《学習目標》 1. 看護を学ぶにあたっての「学び方」を学ぶ。 2. 看護の歴史を理解し、看護について学ぶ。 3. 看護の対象である「人間」の理解を深めることができる。 4. 生活する人々の「健康」について理解を深め、看護について考えることができる。				
回	学習内容と		授業方法	備考
1	ガイダンス 学習目標、学習進度、看護の学び方		講義	
2～5	看護とは:看護のはじまり ① 看護の源泉と近代看護 ①看護の源泉と近代看護 ②ナイチンゲールと看護 ③私たちが考える看護～ 事前学習の交流		講義・演習	事前学習①提出 (提出日4/19)
6～10	看護の対象「人間」の理解 ①身体的精神的社会的存在としての人間 ②身体とこころの成長発達 発達課題 ③発達課題・危機理論・ジェンダー ④人間の基本的欲求 欲求段階論 ヴァージニア・ヘンダーソンの看護論 ⑤社会的存在としての人間「生活」をとらえる視点		講義・演習	事前学習②の提出 (提出日5/13)
11～15	健康に関する理解 ①基本的人権としての健康 健康のとらえ PHC HP ②健康と貧困 「健康の社会的決定要因」 ③健康の指標 出生 死亡 人口動態 有訴率 メンタルヘルス ④障害 自立とは 健康レベルと看護 健康観と看護		講義・演習	
《受講上の注意》			《評価方法》	
			筆記試験	80%
			提出課題等	20%
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 基礎看護概論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 看護史 (医学書院) 健康格差の原因ーSDHを知ろう ブックレット制作委員会 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研				
《参考文献》 フローレンス・ナイチンゲール:「看護覚書き」日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン:「看護の基本となるもの」				

科目名	基礎看護学概論Ⅱ	時期	1年後期	講義担当者	
		単位数	1単位	副校長 花田 未希子	
		時間数	15時間(8回)		
看護師としての 実践を基盤に、看護の歴史、人権を尊重した医療や看護の重要性を解説。また、多職種連携の実際からチーム医療の必要性を解説する。					
《学習目的》 基本的人権を擁護する看護について学び、看護観を深めていく。					
《学習目標》 1. 看護の歩みとともに看護の概念が発展してきたことを学ぶ。 2. 基本的人権をまもる看護について理解する。 3. 看護における多職種連携、チーム医療の必要性について理解する。					
回	学習内容			方法	備考
1	1. 社会の発展と医療・看護の変遷			講義	
2	古代から近代の医療と看護 富国強兵政策 戦時下の看護 戦後の看護の変遷				
3	フローレンス・ナイチンゲールの功績と看護 看護覚書から考える				
4	2. 基本的人権を擁護する看護			講義	
5	医療における基本的人権擁護 ハンセン病の歴史と人権				
6	看護師の倫理綱領				
7	3. 多職種協働の医療・看護			講義	
8	医療・保健・福祉の場における他職種 多職種協働の実際				
《受講上の注意》				《評価方法》	
				筆記試験	50%
				レポート等	50%
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 基礎看護概論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 看護史（医学書院）					
《参考文献》 健康格差の原因―SDHを知ろう ブックレット制作委員会 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研 フローレンス・ナイチンゲール:「看護覚書き」日本看護協会出版会 新体系 看護学全書 医療学総論 健康支援と社会保障制度① メヂカルフレンド社					

科目名	基礎看護技術Ⅰ (共通技術)	時期	1年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 佐藤 幸子 片岡 和江	
		時間数	30時間(15回)	認定看護師 守谷千恵子 澁谷美里 安井美保	
一般病院の看護師としての実践を基盤に、看護技術の特徴や安全安楽を追求した基礎看護技術の学び方などについて解説する。感染防御技術は、病院内の医療関連サーベイランス、感染管理教育、コンサルテーションなど、感染防御に関する業務を行っている感染管理認定看護師から解説し演習する。					
《学習目標》					
1. 看護技術の特徴と学び方を理解する。					
2. 看護におけるコミュニケーションの意義や留意点について理解する。					
3. 感染防止における看護師の責務と役割を理解する。					
4. 感染防止の基礎となる知識と技術を習得する。					
回	学習内容			担当	方法
【単元1】看護技術概論					
1	技術とは、看護技術の特徴			専任教員	講義
2	看護技術の学び方、看護の安全性と安楽性(1)				
3	看護技術の学び方、看護の安全性と安楽性(2)				
4	医療安全の基礎知識 危険予知トレーニング				
【単元2】コミュニケーション技術					
5	コミュニケーションの基礎			専任教員	講義
6	トータルコミュニケーション				
7	医療・看護におけるコミュニケーション				
8	コミュニケーション手段に障害をもつ対象とのコミュニケーション				
【単元3】感染防御技術					
9	感染症の歴史(人類と感染症のかかわり、生物学の発展、感染防止技術のはじまり)			感染管理 認定看護師	講義
10	医療関連感染と医療者の役割(微生物と人間のかかわり、感染と感染成立の連鎖、・医療関連感染とは、感染防止のための医療者の役割)				
11	感染予防の基礎知識(スタンダードプリコーション、感染経路別予防策)器材の洗浄・消毒・滅菌、隔離法、感染性廃棄物の取り扱い、療養環境の清潔保持、針刺し・切創事故防止				
12～15	1) 手洗い 2) 個人防護具の着脱 3) 拭うテクニック(演示) 4) 無菌操作 5) 創部の消毒法				演習 グループに分かれて手洗い実験を行う
《受講上の注意》				《評価方法》	
				筆記試験	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					

科目名	基礎看護技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	時期	1年	講義担当者
		単位数	2単位	専任教員 身崎 佳世 ・ 田村 章江 森下 千鶴 ・ 吉田 文絵
		時間数	45時間(23回)	
一般病院での看護師としての実践を基盤に、フィジカルアセスメントの意義と、基礎知識と技術について解説し、基本的な技術の習得を目指す。				
《学習目標》				
1. 看護過程における能動的観察、フィジカルアセスメントの意義を理解する。				
2. フィジカルアセスメントの基本技術を習得し、アセスメントのポイントを理解する。				
3. バイタルサインの意義、測定方法を習得する。				
回	学習内容		方法	備考
1	看護過程における観察の意義(観察の位置づけ、方法、看護事実から出発する看護)		講義	・バイタルサインの意義の講義前に血液循環・呼吸・体温の仕組みと働きについて自己学習しノート提出
2	能動的観察とは(観察の視点、手段、意義、必要条件、留意点)		講義	
3	バイタルサインの意義		講義	
4	血液循環の仕組みと働き～脈拍・血圧の観察と測定		講義	・演習グループは3名で行う。
5.6	脈拍・血圧の観察と測定技術		演習	
7	体温・意識の仕組みと働き		講義	
8	呼吸の仕組みと働き(SpO ₂ 測定含む)		講義	・教員の演示を事前教材で示されたときは各自事前に視聴すること。
9	体温測定と呼吸の観察、SpO ₂ 測定		演習	
10	バイタルサインの観察の実際(脈拍、血圧、体温、呼吸の系統的観察)と経過表の記入方法		講義	
11.12	総合演習と形成テスト導入		演習	
13.14	バイタルサインの測定技術形成テスト		形成テスト	
15	問診による情報収集の実際		講義	
16	看護記録の実際と個人情報保護 (記録の実際、診療記録の取り扱い、看護学生の責任)		講義	
17	体表面の観察とフィジカルアセスメント(観察の視点と触診法)		講義	
18	体表面の測定の実際(触診法、関節可動域測定、徒手筋力テスト)		講義	
19	身体計測、運動機能の測定とフィジカルアセスメント(体格、運動機能の指標と測定方法)		演習	
20	循環器系の観察とフィジカルアセスメント(心音の聴診法、酸素飽和度測定とアセスメント)		講義	
21	呼吸器系の観察とフィジカルアセスメント(呼吸音の聴診法とアセスメント)		講義	
22	腹部・消化器系の観察とアセスメント(腸蠕動音の聴診法とアセスメント、腹部臓器の触診法と打診法)		講義	
23	循環器系、呼吸器系、消化器系の観察の実際		演習	
《受講上の注意》			《評価方法》	
			筆記試験	
《テキスト》				
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)				

科目名	基礎看護技術Ⅲ (看護過程の展開)	時期	1年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	副教務主任 吉田 文絵	
		時間数	15時間(8回)		
一般病院での看護師としての実践を基盤に看護過程の展開について基礎知識を解説し、模擬事例を用いた学習を進める					
《学習目標》					
1. 看護過程の意義を理解する。					
2. 看護過程の構成要素を理解する。					
3. 模擬事例においてアセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案について理解する。					
回	学習内容			授業方法	備考
1	1. 看護過程とは (1) 看護過程の意義と構成要素 (2) 看護過程の基盤となる考え方			講義	
2	2.アセスメント ①アセスメントとは ② アセスメントの視点「人間とは」「生活」「病態」 ③ 情報収集とアセスメント(方法、分類、分析・解釈)			講義・演習	
3	3. 看護問題の明確化 ① 看護問題の明確化とは ②看護問題の種類 ③ 看護問題の優先順位			講義	
4	4.看護問題の抽出 ①紙上事例を用いた看護問題の抽出(個人ワーク) ②看護問題の記述(問題の根拠の整理)			講義・演習	
5	5.看護計画の立案 ①看護目標と期待される結果の設定 ②計画の具体化 ・看護の実施と評価			講義	
6.7	模擬事例を用いた看護過程演習(個人ワーク・GW) ①模擬事例の情報整理 ②アセスメント ③看護問題の抽出 ④看護計画の立案			講義・演習	模擬事例を設定し看護過程に沿って課題に取り組む
8	①模擬事例の看護過程 解説 ②看護記録 ・PONR:問題志向型看護記録の記述の実際 ・クリニカルパス			講義	
《受講上の注意》				《評価方法》	
				筆記試験	
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)					
《参考文献》 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (Gakken)					

科目 目 名	基礎看護技術Ⅳ (環境調整・活動と休息の援助技術)	時期	1年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員	
		時間数	30時間(15回)	伊達 深晴 ・ 身崎 佳世 田村 章江	
一般病院での看護師としての実践を基盤に、環境整備、活動と休息の援助に意義と方法について解説し、技術獲得を促す					
《学習目標》					
1. 健康生活の維持や疾患の回復のために、生活環境の果たす役割について学習する。					
2. 個々の患者に適した快適で安全な療養環境を提供する技術を習得する。					
3. 活動と休息の意義と障害における人体・生活に与える影響を理解する					
4. 安全・安楽な体位変換・移動の援助技術を習得する。					
回	学習内容			授業方法	備考
【単元1】環境調整					
1	環境とは(健康生活と環境、患者を取り巻く生活環境)			講義	
2	療養環境の調整(病室、病床を構成するものと病床整備の実際)			講義・演示	
3	病床整備・基本ベッドの作り方(リネン類の準備とたたみ方、ベッドメイキング)			講義・演示	
4	病床整備・基本ベッドの作り方			演習	
5					
6	病床整備・基本ベッドの作り方			演習	
7	病床整備・臥床患者のリネン交換			演示・演習	
8					
【単元2】活動と休息の援助技術					
9	人間の生活―活動と休息の意義と仕組み			講義	
10	ボディメカニズム			講義・演習	
11	活動と休息の援助技術(体位交換、移動の援助)			講義	
12	安楽な体位と体位変換(演習)			講義・演習	
13	移動移乗の援助技術(講義)			講義	
14	移動移乗の援助技術(演習)			演習	
15	睡眠・睡眠障害の看護			講義	
《受講上の注意》				《評価方法》	
				レポート・筆記試験	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					

科目名	基礎看護技術Ⅴ (清潔の援助技術)	時期	1年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 森下 千鶴・小田 麻起子 田村 章江	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院で看護師としての実践を基盤に、身体清潔の意義を解説し、演習を通して技術の獲得を目指す 《学習目標》 1. 健康生活における身体清潔の意義を理解する。 2. 疾病時の清潔の重要性について理解する。 3. 皮膚および粘膜の清潔法について専門的な知識を理解する。 4. 全身の清潔のケアが原則にもとづいて安全に実施する技術を習得する。					
回	学習内容			授業方法	備考
1	身体清潔の意義 ・皮膚および粘膜のしくみとはたらき ・保清を行う上での安全で安楽な技術の原則 ・GWを通して、安全な湯の温度、タオルの使い方などを考える			講義・演習	＊各技術項目の演習時は、実技評価表を用いて行う
2.3	モーニングケア			講義・演習	
4	寝衣交換(身体を覆う衣服[寝衣]の意義と着脱の援助)			講義	
5～7	手、足の清潔援助技術とスキンケア(手浴・足浴・爪切り)			講義・演習 演習	
8～10	全身の清潔援助技術(全身清拭)			講義・演習 演習	
11～13	毛髪、頭皮の清潔援助技術(洗髪)			講義・演習 演習	洗髪時は各自のシャンプー・トリートメント等を持参する
14.15	陰部の清潔技術(陰部洗浄)			講義・演習	モデル人形使用
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					

科目名	基礎看護技術Ⅵ (食事と排泄・体温調整の援助技術)	時期	1年次前期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 小田 麻起子	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院での看護師としての実践を踏まえて、食事の意義と援助、排泄の意義と基本援助について解説し、演習と講義で進める。					
《学習目標》					
1. 食事の援助における看護者の役割について理解する。					
2. 疾病、摂食障害のある対象の食事援助について理解する。					
3. 排泄援助の目的、留意事項を理解する。					
4. 排泄障害の種類や程度に応じた基本的援助技術を修得する。					
回	学習内容			授業方法	備考
【単元1】食事と排泄の援助技術					
1	・人間にとっての食事とは ・看護における食事の位置づけ			講義	
2	・食生活の基本的援助			講義・演習	
3	・疾病、障害と食事について ・疾病を持つ対象、摂食・嚥下障害のある対象の援助技術				
4	・排泄の定義 ・排泄のメカニズム、健康な排泄状況、排泄の基本姿勢			講義・演習	
5	排泄の基本援助 ・観察とアセスメント、排泄の援助技術			講義・演示	
6・7	排泄障害とその影響 ・排尿障害と排便障害			講義	
8	排泄障害の援助			講義・演示 演習	
9・10	・尿器、便器を使用した床上排泄援助 ・臥床患者のおむつ交換				
【単元2】体温調節の援助技術					
11	・体温調整の仕組みと温熱・冷感刺激に対する生体の反応 ・電法の意義・効果			講義	
12	・電法の適応と留意点				
13	・冷・温電法の実際				
14.15	・安全・安楽な電法			演習	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					

科目名	基礎看護技術Ⅶ (日常生活援助技術ゼミナール)	時期	1年後期	講義担当者
		単位数	1単位	専任教員 小田麻起子 佐藤幸子 他
		時間数	30時間(15回)	
一般病棟での看護実践に基づき、患者の個別性に対応する実践的な看護技術について、学生が協働して探求する学習を指導する				
《学習目的》				
患者の要求に応えた安全で安楽な基礎看護技術を実践できる基礎力を養う				
《学習目標》				
1. 設定事例に応じた適切な方法で基礎看護技術を実施できる				
2. ゼミナールを通して、安全で安楽な基礎看護技術について考えることができる				
3. グループ・クラスのなかで、相互に学び合うことができる				
学習内容・方法				備考
【学習方法】				
1) グループに指定された課題テーマの設定事例に応じた安全・安楽な看護技術について、グループでの討議・演習を行う。				
・ 課題テーマの看護技術の原則や留意点を復習し、基本的な技術を習得する。				
・ 設定事例にとって安全・安楽に実践するために必要な学習を行い、留意点・方法(手順)根拠について演習を通してグループ討議し決定していく。				
2) 自分で学習したこと、毎回のグループワークでの討議内容や確認した方法・根拠・留意事項について、ノートと「技術カード」に各自整理する。				
3) 演習での討議・内容は、交代で「グループワーク記録用紙」に記入し、毎回提出する				
4) リーダー会議(課題テーマごと)を行い、学びを交流する。				
5) ゼミナールを実施し、一人ずつ課題テーマ(指定された事例)について発表 する				
【ゼミナール】				
1) 発表は4分散会に分かれて行う。				
2) 患者役・助手はグループメンバーが行う。				
3) 発表後は見学者や教員から質問・意見感想を受け、相互に学び合う。				
【課題技術項目の例】				
・ 臥床患者のリネン・寝衣交換				
・ 体動制限のある患者の洗髪				
・ 運動麻痺患者の清拭				
《評価方法》				
実技試験 演習参加状況、学習内容、ゼミナール参加状況などから総合評価				
《テキスト》				
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)				
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)				

科目 目 名	基礎看護技術Ⅶ (与薬の援助技術)	時期	2年	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員	
		時間数	30時間(15回)	干場 勇宜 田村 章江	
一般病院で看護師としての実践を基盤に薬物療法の基礎知識の解説し、演習で与薬に関する技術の習得を目指す 《学習目標》 1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 安全に与薬を実施するための基礎的知識を理解する。 3. 安全に与薬を実施するための基礎的技術を習得する。					
回	学習内容			授業方法	備考
1.2	薬物療法の看護総論 ・薬物療法の意義 ・薬物療法における看護師の役割 ・薬物等の管理			講義	
3.4	経口・経皮・外用薬の与薬			講義・演習	
5	注射法による与薬 ・注射法の基礎 ・注射法に用いられる物品の取り扱いと準備 ・皮内注射について			講義	
6.7	注射薬の準備(シリンジへの吸い上げ方)			演習	
8	皮下注射と筋肉注射について			講義	
9.10	注射法の実際 ・注射用モデルを用いて皮下注射を演習する ・筋肉注射についてはシリンジの持ち方、刺入角度、注射部位の確認を行う			演習	
11.12	静脈注射法 ・注射用モデルを用いて静脈注射法			講義・演習	
13	輸液療法 ・輸液療法の目的、適応と特徴 ・輸液の投与方法(末梢静脈輸液)と輸液製剤の特徴			講義	
14	輸液管理と輸液療法の看護 ・滴下管理			演習	
15	輸血療法を受ける対象の援助技術 ・輸血療法とは(目的、適応、分類、輸血製剤の種類) ・輸血の副作用と輸血製剤の保管管理 ・輸血の実際(交差試験、実施時のダブルチェック、観察)			講義	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					

科目 目 名	基礎看護技術Ⅸ (診察・検査時の援助技術)	時期	2年後期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 干場 勇宜・森下 千鶴 身崎 佳世 他	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院の内科病棟での看護師としての実践を基盤に診察時や検査時において患者に、安全に実施されるための看護師の役割について解説する。					
《学習目標》					
1. 診療の過程と診療場面における看護師の役割を理解できる					
2. 検体採取と検体の取り扱いの基礎を修得する					
3. 12誘導心電図・心電図モニターの測定意義を理解し測定方法の基礎を修得する					
4. 検査における看護師の役割を理解できる					
回	学習内容			授業方法	備考
1	診察・検査時の看護師の役割 ・診察における看護師の役割と診察時の援助 ・検査における看護師の役割			講義	
2・3	診察・検査時の看護師の役割 検査介助の基本 ・生体検査(X線検査、X線断層検査、MRI、血管造影検査、内視鏡検査、超音波検査等)			講義	
4	採血と検体の取り扱い ・血液検査とは(目的、検査の種類) ・採血法の方法と留意点			講義・演示	
5・6	採血の実際(採血モデルで練習後、教員の指導のもと学生同士で実施する)			演習	
7	糖尿病の診断・治療に関連した検査			講義	
8	排泄物の検査 ・検体採取法と検体の取り扱いの留意点(尿検査、便検査、喀痰検査)			講義・演示	
9	排泄物の検査 ・導尿法の方法と留意点			講義	
10・11	排泄物の検査 ・導尿の実際(導尿モデルを用いて演習する)			演習	
12	心電図検査の実際と援助 ・心電図検査の意義と目的、留意点 ・心電図の正常と異常、不整脈発生時の看護 ・12誘導法による心電図検査、心電図モニタリング			講義・演示	
13・14	心電図検査の実際 ・12誘導心電図の検査方法			演習	
15	検査時の介助の実際			講義	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					

科目 目 名	基礎看護技術Ⅹ (診療に伴う援助技術)	時期	2年次後期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 伊達 深晴・森下 千鶴 田村 章江	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院の内科病棟での看護師としての実践を基盤に、対象の生命維持に関連する看護に必要な基礎知識を解説し、演習を取り入れながら基本となる技術の習得を目指す。					
《学習目標》					
1. 人工呼吸器の原理、管理の基本を理解する。					
2. 呼吸機能を整えるための酸素療法と吸引の基本技術を習得する。					
3. 循環機能を維持するための、体系管理と輸液ポンプによる輸液管理の実際を理解する。					
4. 創傷管理に必要な基礎知識を理解する。					
回	学習内容			講師	授業方法
【単元1】呼吸を整える援助技術					
1	人工呼吸器の管理 ・人工呼吸器の目的と生体に及ぼす影響 ・人工呼吸器の原理と、装着患者の看護			専任教員	講義
2	気道内分泌物の排出の援助 ・体位ドレナージ、スクイーピング法 ・一時吸引(喀痰の観察)				講義・演示
3・4	一時吸引法の実際 吸引モデルを用いた演習				演習
5	酸素吸入療法と薬液吸入 ・酸素吸入療法の目的と酸素の取り扱いの留意点 ・酸素吸入療法の方法				講義
6	酸素吸入療法の実際				演習
7	薬液吸入の実際 ・薬液吸入の目的と留意点 ・薬物療法の実際				講義・演習
【単元2】医療機器の操作・管理					
8・9	輸液ポンプ、シリンジポンプによる輸液管理、中心静脈栄養 ・輸液ポンプの原理と操作方法、持続的輸液の管理の実際			専任教員	講義・演習
10・11	持続的輸液を受ける患者の日常生活のケアの実際(固定法、更衣の援助と留意点)				演習
【単元3】創傷ケア援助技術					
12	創傷管理:創傷とは、創傷の治癒過程と観察、創傷管理の実際			専任教員	講義
13	ドレーン管理の実際 ・ドレーンの目的と種類、観察と管理の実際				講義
14	包帯法:包帯法の原則と包帯材料の取り扱い				講義・演示
15	包帯法の実際				演習
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					

科目名	地域・在宅看護概論Ⅰ (地域に暮らす人々の理解)	時期	1年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	副校長 花田 未希子	
		時間数	15時間(8回)		
一般病院の内科病棟および外来部門での実践を基盤に、人々の多様な価値観、健康、暮らしについて解説し視野を広げる。また、暮らしが健康に与える影響について事例を紹介し解説する。					
《学習目標》					
1. 暮らしの基本構造について理解する。					
2. 多様な価値観・健康・暮らしがあることを理解する。					
3. 地域・生活環境と人々の暮らしが健康に与える影響を理解し看護の役割を学ぶ。					
回	学習内容			授業方法	備考
1	ガイダンス～「地域・在宅看護論」の構成とねらい 序章 地域の中での暮らしと健康・看護 家族と暮らしと私の視点(働くこと、高齢者、出産・育児と暮らし)			講義	課題1 提出日
2	人々の暮らしと地域・在宅看護 1. 人々の暮らしの理解～ 1)暮らしを構成するもの 2)一人ひとり異なる暮らし 2. 地域・在宅看護の役割			講義	
3	暮らしの基盤としての地域の理解 地域の生活環境が健康に与える影響(文化・社会・自然) 健康の社会的決定要因 課題2の提示:地域リサーチ			講義・演習	課題2 提出日
4.5	地域・在宅看護の対象者 地域による多様性、ライフステージによる多様性、健康レベルによる多様性 家族の理解			講義	
6	地域の生活環境が健康に与える影響と看護の役割① 地域の状況を知り健康問題について考える 地域の看護実践から学ぶ(診療所の看護実践)			演習	講義感想文 提出
7	地域の生活環境が健康に与える影響と看護の役割② 町内会長さんのお話し(町内会活動と地域) 小学校養護教諭からみた地域の子どもたち			演習	講義感想文 提出
8	地域の生活環境が健康に与える影響と看護の役割③ 地域リサーチの交流			演習	講義感想文 提出
《受講上の注意》				評価方法	
・地域リサーチを実施する場合は、服装に留意する。				①提出物 50% ②筆記試験 50%	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)					
健康格差の原因－SDHを知ろう ブックレット制作委員会					
《参考文献》					

科目名	地域・在宅看護概論Ⅱ (地域に暮らす人々の健康と看護)	時期	1年後期	講義担当者	
		単位数	1単位	副校長 花田 未希子	
		時間数	15時間(8回)		
《事前学習内容》					
＊可能な学生は地域活動やボランティア活動に参加してみましょう。					
一般病院の内科病棟および外来部門での実践を基盤に、地域で暮らす人々の理解、地域のまちづくりの必要性を解説する。					
【学習目標】					
1. 地域で暮らす人々の健康と暮らしを支える場と看護について学ぶ。					
2. 地域の健康保健活動・まちづくりの実際を知り、その必要性を理解する。					
回	学習内容			授業方法	備考
1	ガイダンス 地域包括ケアシステム 地域で暮らす人々を支える様々な場			講義	
2	看護が提供される様々な場と看護活動 病院・診療所、居宅、療養通所介護事業所、訪問看護事業所、など			講義	
3	健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 健康行動理論 セルフケア理論			講義	
4	地域で暮らす人々の健康と看護の必要性① 模擬事例の提示			講義・演習	
5	地域で暮らす人々の健康と看護の必要性② 模擬事例のアセスメント			演習	
6	地域で暮らす人々の健康と看護の必要性③ 模擬事例への保健指導			演習	
7	地域で暮らす人々の健康と看護の必要性④ 模擬事例への保健指導			演習	
8	地域住民の要求と医療保健活動 まちづくりの実際 ～ まちづくりに関わる方の話し			講義	
《受講上の注意》				評価方法	
グループワークはメンバーで話し合い学習目標に向かう				①提出物 50% ②筆記試験 50%	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)					
《参考文献》					
健康格差の原因－SDHを知ろう ブックレット制作委員会					

科目名	地域・在宅看護概論Ⅲ (在宅看護概論)	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員	
		時間数	15時間(8回)	佐藤 幸子	
一般病院、在宅分野の看護師としての実践を基盤に、在宅看護の変遷や対象の理解、介護保険制度や多職種との連携など基礎知識を解説する。					
【学習目標】					
1. 地域で疾病や障害を抱えて生活している対象とその家族について理解できる。					
2. 地域・在宅看護の特徴と看護の役割について理解できる。					
3. 対象が地域や在宅で療養し続けるための保健・医療・福祉における多職種との連携・協働の必要性について理解できる。					
回	学習内容			講師	授業方法
1	ガイダンス(本科目の位置づけ、授業目標、授業計画など) 地域・在宅看護の社会的背景、地域・在宅看護に関わる用語の定義			専任教員	講義 GW
2	在宅看護の変遷、地域・在宅看護活動の特徴、 在宅看護における看護とサービス提供機関				
3	地域療養を支える法・制度 1 (社会資源の活用、医療保険制度など)				
4	地域療養を支える法・制度 2 (介護保険制度…地域・在宅看護論実習Ⅰ期の実習施設を見てみよう)				
5	在宅療養を支える訪問看護の実施機関とその機能、地域・在宅看護の対象者の 理解、地域・在宅看護と健康障害				
6	在宅療養を支える訪問看護師の役割(ミニワーク・DVD視聴など)				
7	在宅療養における家族支援の在り方と介護負担の軽減に向けた援助 (家族(世帯)の社会的背景、家族の機能、家族のアセスメント、介護負担)				
8	在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 (高齢者虐待・日常生活自立支援事業など)				
受講上の注意				評価方法	
				筆記試験 100%	
《テキスト》					
ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版)					
《参考文献》 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院)					
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 (医学書院)					

科目名	地域・在宅看護各論Ⅰ (在宅看護マネジメント)	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	緩和ケア認定看護師 室田ちひろ 専任教員 佐藤 幸子	
		時間数	15時間(8回)		
リハビリ専門病院および訪問看護師としての実践を基盤に、在宅看護の特徴や訪問看護課程の展開など基礎知識を解説する。また、ケアマネージャーとして実践を交え、在宅ケアの連携とマネジメントについて解説する。					
《学習目標》					
1. 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護について理解する。					
2. 在宅療養を支える多職種連携について理解する。					
3. 入退院支援の必要性と継続看護の意義について学ぶ。					
4. 地域・在宅看護における社会資源の活用とケアマネジメントについて学ぶ。					
回	学習内容			講師	授業方法
1・2・3	1. 地域包括ケアを推進する関係機関と地域における保健医療福祉をみる視点を持つ 1) 地域包括ケアシステムの基本的な考え方 2) 在宅療養を支える多職種連携 3) 地域リサーチを通して地域における保健医療福祉の状況を知る			専任教員	講義 GW
4・5	2. 継続看護と入退院支援 1) 継続看護 2) 退院支援のプロセス 退院調整チームと看護師の役割 3) 事例の退院支援を考える（脳梗塞、高齢者の事例を通して）			専任教員	講義
6・7・8	3. 在宅ケアの連携とマネジメント 1) 地域包括ケアシステムと在宅ケア 2) ケアマネジメントと看護 3) 関連職種との連携(多職種連携) 4) 在宅ケアシステムの実践			訪問看護師	講義
《受講上の注意》				評価方法	
※夏季休暇課題 自身の居住地域について「保健医療福祉に関する事業所」に注目し、「私の地域図」を作成する。				筆記試験	80%
				レポート	20%
《テキスト》					
ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版）					
《参考文献》					
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1（医学書院）					
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2（医学書院）					

科目名	地域・在宅看護各論Ⅱ (在宅看護技術)	時期	2年後期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 佐藤幸子・伊達深晴 他	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院、高齢者療養病院の看護師としての実践を基盤に、在宅療養における基本的な看護技術について解説、演習を行う。					
《学習目標》					
1. 在宅で療養する対象と家族を支援する在宅看護実践のための基本技術を習得する。					
2. 療養者の観察と日常生活上の援助技術を習得する。					
3. 在宅で治療の継続を必要とする療養者と家族への援助技術を習得する。					
回	学習内容			講師	授業方法
1～6	在宅療養に特徴的な看護技術 1. 療養者、介護者・家族、生活環境のアセスメントと援助 ①移動・移乗のアセスメントと援助 ②食のアセスメントと援助 ③排泄のアセスメントと援助 ④清潔のアセスメントと援助 ⑤服薬管理のアセスメントと援助 ⑥在宅における感染予防 ⑦危機管理(リスクマネジメント) 2. 在宅療養者への看護技術の実際(演習)			専任教員	講義・演習
7.8	医療処置のある療養者への援助技術① 経管栄養法(経鼻、胃ろう、胃管挿入)			専任教員	講義・演習
9・10・11	医療処置のある療養者への援助技術② 排便困難な療養者への浣腸施行時の援助技術(排便援助)			専任教員	講義・演習
12	在宅で療養する対象の看護① 認知症で療養する対象の看護			訪問看護師	講義
13	在宅で療養する対象の看護② 終末期にある療養者の看護				
14	在宅で療養する対象の看護③ 治療・処置を受けている療養者の援助技術				
15	在宅で療養する対象の看護④ 神経難病で療養する対象の看護				
《受講上の注意》				評価方法	
※冬季休暇 課題 「自宅にあるものを使って足浴を実施しよう」				筆記試験 レポート	80% 20%
《テキスト》					
ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版)					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					
《参考文献》					
写真でわかる訪問看護アドバイス インターメディカ					

科目名	地域・在宅看護各論Ⅲ (看護過程)	時期	2年後期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員	
		時間数	30時間(15回)	佐藤幸子・伊達 深晴	
一般病院、在宅分野の看護師としての実践を基盤に、在宅看護過程の展開について演習を取り入れ基礎知識を解説する。 《学習目標》 1. 在宅療養者と家族の看護過程について理解できる。 2. 在宅看護に必要な技術や療養指導の実践を理解できる。					
回	学習内容			講師	授業方法
1～7	1. 在宅における看護過程の特徴 2. 在宅における看護過程の展開（模擬事例） ①情報収集・アセスメント ②看護目標・計画の実践 3. ケアマネジメント(介護サービスなど)の実践 ケアプランの作成・検討など			専任教員	講義 GW
8～15	4. 紙上事例で学ぶ在宅看護過程の演習 ①ロールプレイ学習の導入 ②看護過程演習 ③事例紹介 ④課題テーマの提起 ⑤脚本づくり ⑥ロールプレイの発表・交流			専任教員	講義 GW
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	60%
				レポート	40%
《テキスト》 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版） 《参考文献》 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践（医学書院） 関連図で理解する在宅看護過程（メヂカルフレンド社）					

科目名	成人看護学総論	時期	1年後期	授業担当者	
		単位数	1単位	専任教員 干場 勇宜	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院での看護実践を踏まえて、成人期にある対象の特徴や健康の保持増進、疾病予防、生活と健康問題の基礎知識について解説する。					
《学習目標》					
1. 成人期にある対象の特徴について理解する。					
2. 成人期にある対象の健康状態を生活と労働の視点で理解する。					
3. 成人期の生活と健康問題を理解し、健康の保持増進・疾病予防のための看護について学ぶ。					
回	学習内容			授業方法	備考
1	成人看護学とは・成人とは			講義 演習	毎回講義の中にミニ演習を行う
2	成人の区分、発達段階と発達課題、アイデンティティってなんだ？				
3	成人各期の特徴①				
4	成人各期の特徴②				
5	成人期と家族、地域社会				
6	成人の健康の動向				
7	成人を対象とした保健・医療・福祉政策				
8	成人期と貧困問題、医療保険制度				
9	成人期に特徴的な健康問題(生活習慣・心の健康)とSDH				
10	人間関係の構築・意思決定支援				
11	成人への看護アプローチ				
12	成人期の対象理解と看護① 労働と生活				
13	成人期の対象理解と看護 ② 事例の対象理解と健康問題・看護				グループでの取り組み
14	成人期の対象理解と看護 ③ 事例の対象理解と健康問題・看護				
15	成人期の対象理解と看護 ④ 発表・共有				
＊第12～14講義の演習は、4名1グループで紙上事例を通し理解を深める。					
《受講上の注意》 講義毎に講師とのコミュニケーションカードに意見・質問・感想を記載する。				評価方法	
				筆記試験	85%
				演習内容	15%
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院) 健康格差の原因ーSDHを知ろう ブックレット制作委員会 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 (メヂカルフレンド社)					
《参考文献》 北海道社保協ハンドブック 道民のくらしに役立つハンドブック 北海道社会保障推進協議会					

科目名	成人看護学各論Ⅰ (急性期にある対象の看護)	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	集中ケア認定看護師 堀川 恵 専任教員 干場 勇宜	他
		時間数	30時間(15回)		
急性期病院での看護実践を踏まえて、急性期にある成人患者とその家族の特徴および、救急看護について基礎知識と解説する。また、循環器、脳血管疾患などの模擬事例を用いた看護過程の展開について解説する。					
《学習目標》					
1. 急性期の成人患者と家族の特徴について理解できる。					
2. 急性期の治療や看護の特徴について理解できる。					
3. 健康の危機的状況にある成人患者とその家族への看護について理解できる。					
回	学習内容		授業方法	担当・備考	
1	急性期看護と看護過程		講義	専任教員	
2	急性の状態にある対象の身体的・心理的反応と社会的影響				
3	急性の状態にある対象理解のための危機理論				
4	救急看護①(救急救命医療と看護・看護の展開・意思決定支援)		講義	臨床看護師による講義	
5	救急看護②(救急看護の実際)				
6	クリティカルケア(クリティカルケアの概要・臨床推論の実際)		講義	集中ケア認定看護師による講義	
7					
8	急性期における入退院支援の実際		講義	退院支援看護師	
9	急性期にある成人への看護(循環器疾患)		講義・演習	臨床看護師による講義	
10	循環器系一対象の特徴、虚血性心疾患・胸痛をもつ対象の看護、心臓カテーテル検査を受ける対象の看護、不整脈の看護				
11					
12	急性期にある成人への看護(脳血管系疾患)		講義・演習	臨床看護師による講義	
13	脳血管系一原因と障害の程度のアセスメントと看護、脳卒中の対象の看護				
14					
15	急性期にある対象への看護の実際③ 感染症一敗血症、日和見感染症		講義		
《受講上の注意》			評価方法		
			筆記試験	100%	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳・神経 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11]アレルギー/膠原病/感染症 (医学書院)					
系統看護学講座 別巻 救急看護学(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 (医学書院)					
《参考文献》					
看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (Gakken)					
系統看護学講座 別巻 クリティカル看護学(医学書院)					

科目名	成人看護学各論Ⅱ (周術期にある対象の看護)	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	手術看護認定看護師 本間 一昭 専任教員 田村 章江 他	
		時間数	30時間(15回)		
急性期病院での看護実践を踏まえて、周術期にある成人患者とその家族の特徴および、看護について基礎知識と解説する。また、消化器、運動器疾患などの模擬事例を用いた看護過程の展開について解説する。					
《学習目標》					
1. 周術期における成人患者と家族の特徴を理解する。					
2. 手術療法とその看護の特徴について理解する。					
3. 周術期にある成人期とその家族への看護について理解する。					
回	学習内容		授業方法	担当・備考	
1	周術期看護①(周術期とは、外来～術前看護、IC、意思決定支援) 周術期にある患者の特徴(身体的・精神的・社会的)		講義	専任教員による講義	
2	手術侵襲と生体反応、創傷・疼痛管理、術後合併症の予防 術後アセスメント・術後の回復促進のための援助		講義	臨床看護師による講義	
3	周術期の看護過程演習 胃がん(50歳)で手術を受ける患者の看護		講義・演習	専任教員による講義・演習	
4	①病態生理			模擬事例を用いて看護過程の展開し、術後の観察やケアの実践を交流	
	②アセスメント				
5	③看護問題				
	④看護計画				
6	⑤手術前後の観察と看護				
7					
8	術中の看護 手術室における看護の展開―術中の観察と看護		講義	手術看護認定看護師による講義	
9.10	周術期にある対象への看護の実際① 運動器疾患 腰椎ヘルニア手術患者の看護 ・術前後の看護 ・装具、体位交換		講義・演習		
11	周術期にある対象への看護の実際② 胸部・甲状腺疾患手術と看護		講義		
12	周術期にある対象への看護の実際③ 乳腺疾患手術と看護		講義		
13	周術期にある対象への看護の実際④		講義・演習	皮膚・排泄ケア認定看護師による講義と演習	
14	大腸がん手術を受け人工肛門造設の患者の看護 ストマ管理、スキンケア				
15	ア、ボディーイメージの変化 ストマケアの演習				
《受講上の注意》			評価方法		
			筆記試験	90%	
			レポート	10%	
《テキスト》 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)					
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 (医学書院)					
《参考文献》 新体系 看護学全集 臨床看護総論 (メヂカルフレンド社)					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 (医学書院)					
看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (Gakken)					

科目名	成人看護学各論Ⅲ (慢性期にある対象の看護1)	時期	2年前期	講義担当
		単位数	1単位	糖尿病看護認定看護師 笹川恭子
		時間数	30時間(15回)	専任教員 佐藤 幸子 他
一般病院での病棟・外来部門での認定看護師としての実践を踏まえて、慢性期にある成人患者とその家族の特徴および、看護について基礎知識と解説する。また、代謝内分泌、呼吸器疾患などの模擬事例を用いた看護過程の展開について解説する。				
【学習目標】				
1. 慢性期の成人患者と家族の特徴について理解する。				
2. 慢性期の治療や看護の特徴について理解する。				
3. 慢性にある成人期とその家族への看護について理解する。				
回	学習内容と成果		授業方法	担当など
1	慢性期とは① 慢性期看護の特徴		講義	専任教員による講義
2	外来看護の実際 SVSの視点 慢性疾患患者の管理		講義	臨床看護師による実践的な講義
3	内分泌疾患患者の看護		講義・演習	
4	慢性腎不全患者の看護①		講義 演習	
5	慢性腎不全患者の看護②			
6	透析患者の看護①		講義	
7	透析患者の看護②			
8	糖尿病患者への看護①		講義 演習	糖尿病看護認定看護師による講義
9	糖尿病患者への看護②			
10	糖尿病患者への看護③			
11	糖尿病患者への看護過程の展開(食事指導の実際)①		講義 演習	専任教員による講義と演習。グループで模擬事例に取組み療養指導を考え実践し交流する
12	糖尿病患者への看護過程の展開(食事指導の実際)②			
13	糖尿病患者への看護過程の展開(食事指導の実際)③			
14	糖尿病患者への看護過程の展開(食事指導の実際)④			
15	糖尿病患者への看護過程の展開(食事指導の実際)⑤			
《受講上の注意》			評価方法	
			筆記試験 95点	
			課題 5点	
《テキスト》				
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 (医学書院)				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝 (医学書院)				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)				
《参考文献》				
看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (Gakken)				
系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[3]栄養学 (医学書院)				

科目名	成人看護学各論Ⅳ (慢性期にある対象の看護2)	時期	2年前期	講義担当
		単位数	1単位	がん化学療法認定看護師 岡本 麻子 他
		時間数	30時間(15回)	
一般病院や診療所の看護師としての実践を踏まえて、慢性期にある成人患者とその家族の特徴および、看護について基礎知識と解説する。また、運動器疾患、血液・造血器疾患などの模擬事例を用いた看護過程の展開について解説する。				
《学習目標》				
1. 慢性期の成人患者と家族の特徴について理解する。				
2. 慢性期の治療や看護の特徴について理解する。				
3. 慢性にある成人期とその家族への看護について理解する。				
回	学習内容		授業方法	講師
1	耳鼻咽喉科患者の看護		講義	臨床看護師
2	口腔内の健康の維持・増進			歯科衛生士
3	眼科疾患患者の看護			臨床看護師による講義
4	膠原病患者の看護①		講義 演習	
5	膠原病患者の看護②			
6	神経疾患患者の看護		講義	
7	運動器疾患患者の看護①			
8	運動器疾患患者の看護②			
9	血液・造血期疾患患者の看護の実際①		講義 演習	
10	血液・造血期疾患患者の看護の実際②			
11	血液・造血期疾患患者の看護の実際③			
12	化学療法を受ける患者の看護①		講義	がん化学療法看護認定看護師による講義
13	化学療法を受ける患者の看護②			臨床看護師
14	放射線療法を受ける患者の看護			
15	慢性期にある患者の看護と課題		講義・演習	専任教員
《受講上の注意》			評価方法	
			筆記試験	
《テキスト》				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕血液・造血器（医学書院）				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院）				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器（医学書院）				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕アレルギー/膠原病/感染症（医学書院）				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔13〕眼（医学書院）				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉（医学書院）				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔15〕歯・口腔（医学書院）				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論（医学書院）				
《参考文献》				
看護診断のためのよくわかる中範囲理論（Gakken）				

科目名	成人看護学各論Ⅴ (終末期にある対象の看護)	時期	2年後期	講義担当者
		単位数	1単位	がん専門看護師・緩和ケア認定看護師 加藤 真由美
		時間数	30時間(15回)	緩和ケア認定看護師 安藤 留美 他
ホスピスケア病棟および外来部門において、認定看護師としての実践を踏まえて、終末期にある成人患者とその家族の特徴および、看護について基礎知識と解説する。また、消化器、呼吸器、循環器疾患などの模擬事例を用いた看護過程の展開について解説する。 《学習目標》 1. 終末期における成人患者と家族の特徴について理解できる。 2. 終末期の治療や看護の特徴について理解できる。 3. 終末期にある成人患者と家族への看護について理解できる。				
回	学習内容		授業方法	担当など
1	終末期看護の概要(終末期とは、死とは、死の受容モデル、全人的理解)		講義	がん専門看護師、緩和ケア認定看護師による講義
2	がん性疼痛			
3	症状マネジメント・日常生活援助・緩和ケアにおける看護の実際			
4				
5	臨死期のケア(臨死期の症状、エンゼルケア、家族ケア)			
6	緩和ケア(緩和ケアとは、多職種連携、倫理的課題と意思決定)			
7	がんとの共存		講義・演習	
8	消化器疾患患者の看護①(肝臓がんなど)		講義・演習	臨床看護師による講義
9	消化器疾患患者の看護②(肝臓がんなど)			
10	消化器疾患患者の看護③(肝臓がんなど)			
11	呼吸器疾患患者の看護①(慢性呼吸不全等)～ LK			
12	呼吸器疾患患者の看護②(慢性呼吸不全等)～ LK		講義	
13	循環器疾患患者の看護①(慢性心不全等)～ 心筋炎 弁膜症			
14	循環器疾患患者の看護②(慢性心不全等)			
15	非がん疾患の終末期、終末期にある対象の理解を深める		講義	専任教員による講義
《受講上の注意》			評価方法	
			筆記試験 100%	
《テキスト》 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳・神経 (医学書院) 《参考文献》 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (Gakken) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院)				

科目名	老年看護学総論	時期	2年前期	講義担当者
		単位数	1単位	専任教員 身崎 佳世
		時間数	15時間(8回)	
一般病院で看護師としての実践を基盤に、老年期にある対象の生活と健康問題や老年期にある対象を支える保健、医療、福祉の連携と看護の役割について講義と演習で進める。				
《事前学習内容》 ①ライフサイクルにおける老年期の特徴②老年期の定義・発達理論ついて調べ、400字程度にまとめる。				
《学習目標》 1. 老年期の生活と健康問題を理解し、看護の役割を学ぶ。 2. 老年期にある対象を支える保健、医療、福祉の連携と看護の役割を学ぶ。				
回	学習内容		授業方法	備考
1	高齢者(老年期)の理解 導入:老年看護をなぜ学ぶのか 1) 高齢者の定義 2) ライフサイクルにおける老年期の特徴、発達理論		GW 講義	
2	看護の対象者である高齢者の個別理解 1) 老年看護学の目標と原則 2) 老年看護学の役割 3) 老年看護学における理論・概念の活用 4) 生活史を知ることの意味 5) 高齢者のための国連原則 6) 生活史聞き取り課題の交流		講義 GW DVD	
3	高齢者の健康課題 (世帯・経済・就業・介護・貧困) 1) 高齢化社会の現状 2) 健康寿命と予防活動		講義 動画	
4	高齢者の健康課題 *3講目の内容続き 1) 健康日本21			
5	日本の高齢化率と現状、将来像 高齢者を支える保健・福祉・医療制度 1) 日本の高齢化率と日本の特徴 2) 超高齢化社会における社会の在り方 3) 地域連携、超高齢化社会における地域包括ケアのあり方 4) 高齢者を支える保健・福祉・医療制度の歴史的変遷 5) 高齢者医療のしくみと特徴 (高齢者医療確保法)			
6	高齢者の権利擁護 (エイジズム アドボカシー) 高齢者と災害 高齢者と医療安全			
7	高齢者の意思決定支援 エンドオブライフケア 1) 意思決定支援とは (退院支援の在り方) 倫理 2) アドバンスケアプランニング (ACP) 、緩和ケア 3) 家族援助の視点の看護			
8	多様な場で看護を必要とする高齢者 1) 居住施設に暮らす高齢者 2) 退院調整の実際と療養の場の特徴と課題			
《受講上の注意》			評価方法	
			筆記試験・レポート	
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)				
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)				

科目名	老年看護学各論Ⅰ (老年期にある対象の理解)	時期	2年	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 伊達 深晴 他	
		時間数	15時間(8回)		
一般病院で看護師としての実践を基盤に、老年期にある対象について加齢に伴う心身の変化や健康問題、生活への影響について解説し、講義と演習で進める。					
《学習目標》					
1. 加齢に伴う心身の変化を科学的にとらえる。					
2. 加齢による健康障害の特徴を理解する。					
3. 加齢に伴う心身の変化による生活への影響について考えることができる。					
回	学習内容			授業方法	備考
1	高齢者疑似体験			演習	
2	高齢者の生理的特徴 1) 老化・加齢の概念 2) 老化の特徴 3) 解剖生理学的特徴 4) 高齢者の健康状態 5) 高齢者の疾患の特徴			講義	
3・4	諸機能の加齢による変化と症候・疾患の特徴1 1) 呼吸機能の変化 2) 循環機能の変化 3) 運動機能の変化 4) ホルモン分泌の変化 5) 睡眠と覚醒の変化			講義	
5	諸機能の加齢による変化と症候・疾患の特徴2 1) 老年症候群(フレイルとサルコペニア、脱水症、体温調節機能と熱中症、せん妄) 2) 廃用症候群			講義	
6	高齢者のヘルスプロモーション(生活・療養の場における看護)			講義	
7・8	予防活動と今後の課題			演習	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験(80%) レポート、演習参加状況(20%)	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)					

科目名	老年看護学各論Ⅱ (老年期の対象の生活援助技術)	時期	2年後期	講義担当者
		単位数	1単位	専任教員 身崎 佳世 他
		時間数	30時間(15回)	
一般病院で看護師としての実践を基盤に、老年期にある対象について加齢に伴う心身の変化に伴う生活への影響をアセスメントする基礎を解説し、生活支援技術について講義と演習で進める。				
《学習目標》				
1. 加齢に伴う心身の変化をとらえ、健康への影響を学ぶ				
2. 加齢による健康障害が生活に及ぼす影響をアセスメントする基礎を学ぶ。				
3. 老年期にある対象の基本的な人権を擁護する生活支援技術を学ぶ。				
回	学習内容		授業方法	備考
1	老年期にある対象の生活機能を支える看護 転倒リスクアセスメント、転倒カンファレンス、転倒転落の予防		講義	臨床看護師
2	加齢による認知機能障害のある事例の看護 ① 認知症の基礎的理解		講義	認知症看護認定 看護師による講 義
3	加齢による認知機能障害のある事例の看護 ② 認知症患者の看護の基礎		講義	
4	加齢による認知機能障害のある事例の看護 ③ 認知症事例の看護の実際		講義	
5	加齢による嚥下障害のある事例の食事援助 ① 加齢による摂食、嚥下の変化、嚥下障害とは		講義	臨床看護師による講義
6	加齢による嚥下障害のある事例の食事援助 ② 嚥下障害のある患者の食事援助の実際		講義	
7	加齢による排泄機能障害のある患者の看護 ① 排尿障害とは、失禁に対する援助、骨盤底筋訓練		演習	
8.9	加齢による排泄機能障害のある患者の看護 ②③ 排尿機能の障害、膀胱留置カテーテル挿入と管理の実際		講義・演習	
10	加齢によるコミュニケーション障害のある患者の看護 視覚の変化、聴覚の変化、老年者のコミュニケーション支援		講義	
11	老年者のスキンケア ① 加齢による皮膚の変化、褥瘡リスク評価、褥瘡スケール		講義・演習	皮膚・排泄 ケア 認定看護師によ る講義、演習
12	老年者のスキンケア ② 褥瘡ケアの実際			
13	老年者のスキンケア ③ 老年者のスキンケア、爪のケア、掻痒感に対するケア			
14・15	老年者の清潔ケア(入浴・シャワー浴援助の実際)		講義・演習	
《受講上の注意》			評価方法	
			筆記試験	
《テキスト》				
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)				
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)				

科目名	老年看護学各論Ⅲ (看護過程)	時期	2年後期	講義担当者
		単位数	1単位	認知症認定看護師
		時間数	30時間(15回)	澤野 亜矢子 他

一般病院で看護師としての実践を基盤に、老年期の看護過程の展開について演習を取り入れ基礎知識を解説する。

《学習目標》

1. 老年期にある対象の看護過程の基礎となる知識を学ぶ
2. 老年期にある対象の看護過程の実践を学ぶ。
3. 老年期にある対象の基本的人権を擁護する、意思決定支援、継続看護の役割を学ぶ。

回	学習内容	授業方法	講師
1	肺炎による心不全が悪化した老年期にある事例の看護過程 ① 対象理解のための基礎:加齢に伴う呼吸・循環機能の変化、老年者の肺炎の特徴、老年者の体液管理、老年者の心臓リハビリの実査	講義	臨床看護師による講義と演習
2.3	肺炎による心不全が悪化した老年期にある事例の看護過程 ②③ 看護過程の実際	講義・演習	
4	脳梗塞により経口摂取困難となった老年期にある事例の看護過程 ① 対象理解のための基礎:加齢に伴う脳血管系の変化(動脈硬化)、運動麻痺、廃用症候群、経管栄養(胃ろう)、意思決定支援	講義	臨床看護師による講義と演習
5.6	脳梗塞により経口摂取困難となった老年期にある事例の看護過程 ②③ 看護過程の実際、臨床倫理5分割カンファレンス	講義・演習	
7	脳神経疾患の老年期にある事例の看護過程 ① 対象理解のための基礎:加齢に伴う脳神経の変化、神経難病の理解、リハビリ	講義	臨床看護師による講義と演習
8.9	脳神経疾患の老年期にある事例の看護過程 ②③ パーキンソン病事例を通じての看護過程の実際	講義・演習	
10	手術療法を受けた老年者の看護過程 ① 対象理解のための基礎:老年者の手術侵襲、術後せん妄、廃用症候群の予防、退院に向けた在宅調整の実際	講義	臨床看護師による講義と演習
11.12	手術療法を受けた老年者の看護過程 ②③ 大腿骨頸部骨折事例を通じての看護過程の実際	講義・演習	
13	終末期にある老年者の看護過程 ① 対象理解の基礎:終末期の理解、終末期の緩和ケア、終末期を迎える家族ケア、エンドオブライフケア、意思決定支援	講義	臨床看護師による講義と演習
14.15	終末期にある老年者の看護の実際 ②③ 慢性閉塞性肺疾患事例を通じた看護の実際	講義・演習	
《受講上の注意》		評価方法	
		筆記試験	
《テキスト》			
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)			
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)			

科目名	精神看護学総論	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	教務主任 久保田 千香子 公認心理師 沼田 佳代	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院で看護師としての実践を基盤に、精神障害者の人権擁護やその歴史的背景、精神保健医療の課題や、精神看護の特徴、基礎知識について解説する。					
《学習目標》					
1.精神保健医療・看護の歴史的変遷と現状を学び、精神障害者の人権尊重の重要性と精神保健医療看護のあり方、今後の課題について考える					
2.精神障害者と家族の理解を深め、治療の有意性と精神看護の特徴、機能と役割について学ぶ					
3.人間の健康を心、身体、社会との関連で総合的に理解し、心の健康を維持するために必要な知識・技術について学ぶ。					
回	学習内容			授業方法	講師
1	精神の健康とは(疲労・ストレス・精神障害の特性)			講義	
2	精神障がい者の理解の歴史(差別・偏見から人権擁護へ)				
3	日本の精神障がい者の現状および精神医療の現状と課題				
4	精神障がい者の人権擁護とリスクマネジメント DVD視聴 (感想文1)			講義 動画視聴	
5					
6	暮らしの場と精神の健康①(小児期 青年期にみられる行動及び情緒の障害)			講義	公認心理師による講義
7	暮らしの場と精神の健康②(学校と精神の健康)			講義	
8	症状の理解と看護1(状態像)			講義	専任教員
9	症状の理解と看護2(代表的な精神症状)			講義	
10	症状の理解と看護3(自殺に向かう人の心理 自傷行為への理解)			講義	
11	「患者-看護師」関係の構築・治療的コミュニケーション			講義・GW	
12	精神障がい者の家族理解と援助 当事者活動			講義	
13	地域活動支援センターすみれ会メンバーさんからの講話 (感想文2)			講話	
14	地域生活移行支援 DVD浦河べてるの活動実践			講義	
15	災害時における地域精神保健医療(災害とこころの健康と危機)			講義	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	80%
				感想文	20%
《テキスト》					
系統看護学講座 精神看護学 [1]精神看護の基礎 第6版 医学書院					
系統看護学講座 精神看護学 [2]精神看護の展開 第6版 医学書院					

科目名	精神看護学各論Ⅰ (精神保健の動向)	時期	2年前期	講義担当者
		単位数	1単位	非常勤講師 奥田 かおり
		時間数	15時間(8回)	
《学習目標》 近年の精神保健の動向と課題を学ぶ。 精神障害のある人に対する看護の考え方を学ぶ。 様々な状況下における代表的なメンタルヘルスの現状や対策について説明できる。				
回	学習内容			授業方法
1	精神保健福祉医療の歴史と現状			講義形式で進める
2・3	精神(心)の発達とライフステージにおける心の健康			
4・5	危機状況とストレス対処			
6・7	精神科リハビリテーション SSTと当事者研究を体験的に学ぶ			
8	現代の心の健康の課題、災害、勤労、自殺			
《受講上の注意》				評価方法
				筆記試験
《テキスト》 系統看護学講座 精神看護学 [1]精神看護の基礎 第6版 医学書院 系統看護学講座 精神看護学 [2]精神看護の展開 第6版 医学書院				

科目名	精神看護学各論Ⅱ (精神疾患の病態・治療と看護)	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	精神専門看護師 村本 好孝 教務主任 久保田 千香子	
		時間数	30時間(15回)		
《学習目標》					
精神障害の病態と治療を学び、健康を回復する看護の役割を学ぶ。					
回	学習内容		授業方法	講師	
1	精神障害の診断基準・分類/ 統合失笑症①(疾患概念、症状、治療)		講義	精神専門 看護師	
2・3	統合失調症② 歴史から振り返る / 映画「人生ここにあり」				
4	統合失調症③				
5	疾患各論 抑うつ障害群/双極性障害及び関連障害				
6	疾患各論 気分障害におけるリワークプログラム 不安症群・不安障害群				
7	疾患各論 強迫症 ト라우マ 解離性障害 身体症状障害群 食行動障害 摂食障害群				
8	疾患各論 パーソナリティ障害群 てんかん 主な治療法(薬物 電気痙攣療法 リハビリテーション療法)				
9	精神科における治療の特徴と看護の役割				
10	精神障害者の看護1(統合失調症)、 DVD視聴 当事者研究 統合失調症「水飲みが止まらない」				
11					
12	精神障害者の看護2(うつ病・双極性障害)				
13	精神障害者の看護3 (神経症性障害、ストレス関連性障害、身体表現性障害など)				
14	精神障害者の看護4(アルコール依存症)				
15	精神障がい者の看護5(精神作用物質使用による精神および行動の障害)				
《受講上の注意》			評価方法		
			筆記試験		
《テキスト》					
系統看護学講座 精神看護学 [1]精神看護の基礎 第6版 医学書院					
系統看護学講座 精神看護学 [2]精神看護の展開 第6版 医学書院					

科目名	精神看護学各論Ⅲ (看護過程)	時期	3年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	教務主任	久保田千香子
		時間数	15時間(8回)		
一般病院での看護師としての実践を基盤に、精神障害をもつ対象の看護過程の展開について模擬事例を示し、演習を取り入れながら基礎知識を解説する。					
《学習目標》 精神の健康障害をもつ人の看護過程を学ぶ					
回	学習内容			授業方法	備考
1	看護過程演習 1＜統合失調症＞ 事例紹介とアセスメント			講義・演習	取組んだ内容をグループワークで交流する
2	看護問題の抽出				
3	看護計画の立案				
4	看護計画の解説 / 看護過程演習2＜アルコール依存症＞ 事例紹介とアセスメント				
5	看護問題の抽出				
6	看護計画立案				
7	看護計画の解説 / 映画鑑賞				
8					
《受講上の注意》				評価方法	
				出席・演習状況 20%	
				個人で立案した看護計画 60% 映画鑑賞感想文 20%	
《テキスト》 系統看護学講座 精神看護学 [1]精神看護の基礎 第6版 医学書院 系統看護学講座 精神看護学 [2]精神看護の展開 第6版 医学書院					

科目名	小児看護学総論	時期	2年前後期	講義担当者	
		単位数	1単位	副教務主任	
		時間数	15時間(8回)	吉田 文絵	
一般病院での看護師としての実践を基盤に、小児期にある対象の特徴や成長・発達、小児看護の役割など基礎的知識を解説し、グループワークを行いながらすすめる。					
《学習目標》					
1. 小児期の特徴を学び、子ども観・家族観を養う。					
2. 子どもの権利について学び、看護に活かす。					
3. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し、看護の役割を考える。					
4. 小児と家族を取り巻く社会状況と健康問題を関連付けて学ぶ。					
5. 小児に関連する保健医療施策を学ぶ。					
回	学習内容			方法	備考
1	小児期の特徴と成長・発達の概要			講義	
2	小児を取り巻く医療の変遷と子どもの権利条約〔小児看護・医療における法律〕			講義	
3	現代社会における小児・家族の状況と小児看護の役割			講義	
4	現代社会における小児の諸問題と看護の視点①GW (虐待、いじめ・不登校、メディア依存、食事と生活習慣病、貧困)			演習	
5					
6					
7	現代社会における小児の諸問題と看護の視点②レポート発表			演習	
8	小児に関連する保健・医療・福祉施策とその課題			講義・演習	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験 70%	
				レポート課題 20%	
				GW参加状況 10%	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児看護学各論 (医学書院)					

科目名	小児看護学各論Ⅰ (小児期にある対象の理解)	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	小児科医師 阿南 佐和 他	
		時間数	15時間(8回)	学童保育指導員 林 奈津子 他	
一般病院で看護師として小児科病棟、小児科外来での実践を基盤に、小児の成長・発達、看護の役割など基礎知識を解説する。 また、保育士、学童保育指導員から小児の特徴や発達段階に応じた療育支援について解説する。					
《学習目標》					
1. 小児の成長・発達を理解し、看護の役割を考える。					
2. 小児の発達段階に応じた養育について学ぶ。					
3. 小児と家族を取り巻く環境について理解する。					
回	学習内容			方法	講師
1～4	1. 小児の成長・発達と日常生活と援助 1) 成長・発達総論 2) 各期の成長と機能の発達 3) 発達評価と乳幼児健診 4) 小児の発達と日常生活行動の変化 2. 予防接種			講義	小児科医師による講義
5	乳幼児期の成長と発達			講義	保育士による講義
6	保育所の役割と制度について				
7	学童期・思春期の成長・発達の特徴			講義	学童保育指導員
8	学童を取り巻く環境の変化とあそび			演習	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児看護学各論 (医学書院)					

科目名	小児看護学各論Ⅱ (小児の疾患と看護)	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	小児科医師 川真田 伸子 他	
		時間数	30時間(15回)		
一般病院での医師としての臨床経験をもとに、小児期における代表的な疾患と治療法について基礎知識を解説する。					
《学習目標》					
1. 小児期の疾患の病態と治療を学び、健康回復を促進する看護について理解する。					
2. 疾患による小児と家族への影響をとらえ、看護について考える。					
回	学習内容			授業方法	講師
1	新生児疾患			講義	小児科医師
2	循環器疾患				
3	呼吸器疾患				
4	消化器疾患				
5	腎・内分泌・代謝 疾患				
6	免疫・アレルギー疾患				
7	血液疾患と腫瘍				
8	熱性けいれん、対処と考え方				
9	発熱の意義と対応 てんかん				
10	小児神経、精神心身症				
11	外来看護			講義	小児科外来看護師
12	小児の栄養と食事				
13	不慮の事故と虐待				
14	在宅療養・病児保育				
15	学童期・思春期の看護				
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児看護学各論 (医学書院)					

科目名	小児看護学各論Ⅲ (看護過程)	時期	3年	講義担当者	
		単位数	1単位	副教務主任 吉田 文絵	
		時間数	30時間(15回)		
《事前学習内容》					
一般病棟で小児科病棟や外来での看護実践基盤に、健康障害をもつ小児と家族の看護について基礎知識を解説し、援助技術については演習を取り入れる。					
《学習目標》					
1 小児期にある対象の看護過程を学ぶ					
2 小児の特徴的な看護技術を学ぶ					
回	学習内容			方法	備考
1	入院を必要とする小児と家族の看護			講義	
2	フィジカルアセスメント			講義	
3	消化器・呼吸器疾患の看護			講義	
4	代謝・内分泌疾患の看護 腎・泌尿器疾患の看護 循環器疾患の看護			講義	
5	こどもの虐待と看護 障害児の看護 終末期の看護			講義	
6・7	小児のあそびとコミュニケーション			講義	
8	看護過程展開 急性期にある小児と家族の看護① 喘息 幼児期			講義	
9	急性期にある小児と家族の看護② 喘息 幼児期			講義・演習	
10	慢性期にある小児と家族の看護① ネフローゼ症候群 学童期			演習	
11	慢性期にある小児と家族の看護② ネフローゼ症候群 学童期			講義・演習	
12・13	シミュレーション演習 小児外来の問診			演習	
14・15	バイタルサインの測定			演習	
《受講上の注意》				評価方法	
				筆記試験	80%
				課題	20%
《テキスト》					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児看護学各論 (医学書院)					

科目名	母性看護学総論	時期	2年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員	
		時間数	15時間(8回)	小田 麻起子	
事前学習内容					
一般病院での助産師としての実践を基盤に、母性看護学の基礎知識を解説するとともに母性をめぐる社会の動向にも目を向ける。また、具体的な母性看護へのイメージがもてるように母性看護学各論につなげる。					
学習目標 1. 母性の概念と看護を必要とする対象の特徴について理解する。 2. 女性の生涯における健康について理解する。 3. 女性を取り巻く現代社会の動向を理解し、保健・医療・福祉における母性看護の役割を学ぶ。 4. 学習を通し、自身の健康や生命について考えることができる。					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	母性看護の基盤となる概念と理論 母性とは、母性の特性、父性・親性、母子相互作用、リプロダクティブヘルス・ライツ			講義	
2	母性看護の対象理解 母性とライフサイクル、女性性や母性性の発達～ジェンダー 性同一性			講義	
3	女性のライフサイクルと健康			講義	
4	母性対象を取り巻く社会の動向と看護の役割1 母子保健統計の動向と母子保健施策			講義	
5	母性対象を取り巻く社会の動向と看護の役割2 女性と労働・男女共同参画社会			講義	
6	リプロダクティブヘルスケア1			演習	
7	リプロダクティブヘルスケア2			演習	
8	リプロダクティブヘルスケア3 母性看護領域の倫理的問題			演習 講義	
受講上の注意				評価方法	
				筆記試験	
使テキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論					
参考文献					

科目名	母性看護学各論Ⅰ (女性の健康と看護)	時期	2年前期	講義担当者
		単位数	1単位	専任教員 森下 千鶴 産婦人科医師・助産師
		時間数	15時間(8回)	
事前学習内容				
一般病院での助産師としての実践を基盤に、母性看護学の基礎知識を解説するとともに、女性の健康とその看護の実際について事例を通し解説する。				
学習目標				
1. 女性のライフサイクル各期における対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。				
2. 女性の健康問題や特徴的な疾患を理解し看護の実際について学ぶ。				
回	学習内容		方法	担当など
1.2	女性のライフサイクル各期の健康問題 1) 女性生殖器の機能的疾患と治療 2) 女性生殖器の性分化疾患と治療 3) 女性生殖器の臓器別疾患と治療		講義	産婦人科医師による講義
3	女性の身体とこころの健康と看護1 思春期女性の健康問題と看護 成熟期女性の健康問題と看護		講義	専任教員
4	女性の身体とこころの健康と看護2 更年期女性の健康問題と看護 老年期女性の健康問題と看護		講義	専任教員
5	女性の健康問題と看護1 生殖医療を受ける対象の理解と看護(不妊治療・遺伝相談等)		講義	専任教員
6	女性の健康問題と看護2 妊娠の成立の理解と看護・妊娠の生理と妊婦の身体的特徴		演習	専任教員
7	女性の健康問題と看護3 女性生殖器疾患と看護 診察時の看護、周術期の看護		講義	臨床助産師による講義
8	女性の健康問題と看護4 化学療法・放射線療法を受ける対象への看護		講義	臨床助産師による講義
受講上の注意			評価方法	
			認定試験	
使用するテキスト				
系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論				
系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論				
参考文献				

科目名	母性看護学各論Ⅱ (周産期にある対象の看護)	時期	2年後期	講義担当者
		単位数	1単位	専任教員 小田 麻起子
		時間数	30時間(15回)	産婦人科医師・助産師
事前学習内容				
一般病院での助産師としての実践を基盤に、妊娠・分娩・産褥期にある対象の理解と看護について解説する。また、事例を通し、具体的な母性看護についてイメージし周産期看護過程につなげる。				
学習目標				
1. 周産期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。				
2. 周産期の健康問題を理解し、各期における看護について理解する。				
3. 周産期における継続看護の意義と母性看護の役割を学ぶ。				
回	学習内容	方法	備考	
1	妊娠期の対象理解と看護1	講義	専任教員による講義	
2	妊娠期の対象理解と看護2			
3	妊娠期の異常(妊娠期感染症・妊娠悪阻・多胎妊娠・子宮外妊娠)	講義	産婦人科医師による講義	
4	妊娠期の異常と看護	講義	専任教員による講義	
5	分娩期の対象理解と看護1			
6	分娩期の対象理解と看護2			
7	分娩期の対象理解と看護3			
8	分娩期の異常	講義	産婦人科医師による講義	
9	分娩期の異常と看護	講義	専任教員による講義	
10	産褥期の経過と早期新生児の生理1			
11	産褥期の経過と早期新生児の生理2			
12	産褥期の対象理解と看護1	講義	臨床助産師による講義	
13	産褥期の対象理解と看護2			
14	新生児の看護～ 早期新生児のアセスメントと援助			
15	新生児の看護～ 早期新生児の異常と看護			
受講上の注意		評価方法		
		認定試験		
使用するテキスト				
系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論				
系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論				
参考文献				

科目名	母性看護学各論Ⅲ (看護過程)	時期	3年前期	講義担当者	
		単位数	1単位	専任教員 森下 千鶴 ・ 小田麻起子	
		時間数	30時間(15回)		
事前学習内容					
一般病院での助産師としての実践を基盤に、母性看護学の基礎知識を解説するとともに母性をめぐる社会の動向にも目を向ける。また、事例を通し、具体的なイメージがもてるよう母性看護学実習につなげる。					
学習目標					
1. 周産期の母子の健康状態を理解し、看護過程展開を学ぶ。					
2. 周産期の母子に必要な看護技術の実践について理解する。					
3. 周産期の切れ目のない継続看護の実践について理解を深める					
回	学習内容			方法	備考
1～4	周産期の看護過程展開1(妊婦事例の看護過程展開)			講義・演習	専任教員
5～8	周産期の看護過程展開2(褥婦事例の看護過程展開)			講義・演習	専任教員
9	周産期の看護過程展開3(帝王切開事例の看護過程展開)			講義・演習	専任教員
10～12	産褥期の母子に対する基本援助技術 ①早期新生児のバイタルサイン測定と身体計測 ②早期新生児の清潔 ③乳房と子宮底の観察			講義・演習	専任教員
13	産褥期の母子に対する継続看護と地域や多職種連携の実践①			講義	臨床助産師による講義
14	産褥期の母子に対する継続看護と地域や多職種連携の実践②				
15	母乳育児支援の実践			講義	小児科医師による講義
受講上の注意				評価方法	
				認定試験	
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論					

科目名	単位数	時期	担当講師
看護管理	1単位 30時間	3年	認定看護管理者 浜谷 綾子 澤田幸子 教務主任 久保田千香子 専任教員 片岡和江 小田麻紀子
【看護管理】 一般病院に認定看護管理者として勤務し、病院全体の看護管理及び看護の質向上の取り組みと人材育成などの実務経験に基づき、一般病院における認定看護管理者としての実践を踏まえて、看護の管理の概念と基礎知識、看護管理者の責務とマネジメントの実際を解説する。 【災害時における看護】 一般病院の看護師としての実践を基盤に、救急看護に必要な基礎知識の解説、災害サイクルに応じた看護、トリアージの実際などを、演習を含めて解説する。 【国際看護】 一般病院の看護師としての実践を基盤に、国際看護の動向や基礎知識を解説するとともに、国際看護について理解を深めるため、海外でかんばんにかかわる講師による講話も企画する。 【看護倫理】 一般病院の看護師としての実践を基盤に、臨床における看護師の倫理的葛藤や患者の人権擁護、意思決定支援を事例や状況を提示しながら、思考を深める。 《学習目標》 1. 多職種との協働の中で看護師として看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 2. 看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。 3. 災害看護、国際看護の特徴と現状について学ぶ。			
授業内容			授業方法
1. 看護管理 (10時間) 1) 看護におけるマネジメント 2) 看護チーム及び保健医療福祉チームのコミュニケーションと調整の実際 3) 看護ケア提供システムと看護管理 4) 看護政策と看護制度 5) 看護サービスと診療報酬体系 6) 看護職の労働災害、職務上の危険とその対策 7) 看護職能団体 2. 災害時における看護 (8時間) 1) 災害看護の概念と構造 2) 災害サイクルと看護(災害サイクル別の看護活動) 3) トリアージの実際 4) 災害と心のケア 5) 災害への備えとそのシステム 6) 災害看護活動の課題 3. 国際看護 (4時間) 1) 世界の健康問題の現状 2) 国際協力の仕組み 3) プライマリーヘルスケアの基本概念 4) 海外の医療・看護の実際 5) 異文化理解と国内での国際協力活動 4. 看護倫理 (8時間) 1) 「看護職の倫理綱領」 2) 患者の権利擁護			講義 講義/演習 講義 海外や国内での国際協力活動の体験者から講義を聞く(レポート提出)
《テキスト》 新体系 看護学全書 別巻 看護管理 看護研究 看護制度 (メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院) 3. 国際看護は、系統看護学講座、専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論を使用する			
《評価方法》 筆記試験で評価する 試験配点(看護管理30点、看護倫理30点、災害時における看護30点)、国際看護レポート10点			

科目名	医療安全	時期	3年	担当講師
		単位数	1単位	副校長 花田 未希子
		時間数	15時間	
一般病院の看護師としての実践を基盤に、医療・看護における看護師の責任や役割、医療安全対策など演習を取り入れながら基礎知識を解説する。 《学習目標》 1. 医療・看護事故の構造や特徴を知り、事故防止の考え方を理解する 2. 事故防止を意識して行動するための基礎的知識を習得する 3. 安全を守る専門職としての責任感と倫理観を高める機会とする				
授業内容				授業方法
1. 医療安全を学ぶ意義 医療安全の歴史 患者取り違え事故からの学び 2. 医療安全の基本 医療事故の実態 事故発生のメカニズム 医療・看護事故の構造と事故防止 3. 医療・看護の法的責任 チームによる医療安全 国の医療安全対策 安全における看護師の法的責任と役割 4. 事故分析 事故の構造 事故分析の手法 インシデント報告の目的 リスクセンストレーニング 5. 看護事故要因の分析～針刺し事故事例の分析～ 事故の背後要因関連図の作成 P-m SHELLモデルの活用 針刺し事故における安全対策 6. 看護ケアにおける事故防止 ～ 根拠を考える				・医療機関における安全管理体制～リスクマネジメントの実際等については「看護管理」の講義内容に含む。 ・患者誤認事故事例から医療安全について考える。 ・演習1 針刺し事故事例の分析 ・演習2 看護ケアにおける事故事例の分析
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 医療安全 看護の統合と実践2（医学書院）				
《評価方法》 演習（25%）と筆記試験（75%）で評価する				

科目名	看護研究	時期	3年	担当講師
		単位数	1単位	教務主任 久保田 千香子
		時間数	30時間	
一般病院での看護師としての実践を基盤に、看護研究の目的や意義、倫理的配慮、ケース・スタディについての基礎知識を解説する				
《学習目標》 1. 看護研究における研究の意義および目的が理解できる。 2. 研究の方法、倫理的配慮、手順など研究の基礎的知識が理解できる。 3. 自己のケースレポートの要約を通して研究的態度を養う。				
学習内容				授業方法
1. 看護研究とは 看護実践と研究の意義 1) 看護研究の目的 2) 看護研究の種類 2. 研究の種類、文献検索の意義と方法研究のステップ 1) テーマ、研究目的 2) 倫理的配慮 3) 文献の活用、引用参考文献の書き方 4) 「はじめに、研究目的、研究方法、結果、考察、結論」 3. 1) 研究における倫理的配慮 2) 研究計画書の意義 3) レポート作成にあたって適切な日本語の表現 4. 学生がおこなうケース・スタディの意義 5. 1) データ分析、量的データと統計処理に関する基礎知識 2) 研究発表の仕方 6. ケースレポートの要約 7～8. 演習:レポートの要約 9～15. 総合ゼミナールの参加				学習課題 研究レポート、学生のケースレポートを通して、研究の方法について理解する 自己のケースレポートを要約することを通して、レポート作成の方法の理解や研究的視点を養う。
《テキスト》 新体系 看護学全書 別巻14 看護管理 看護研究 看護制度 メヂカルフレンド社 看護学生のためのケース・スタディ メヂカルフレンド社				
《評価方法》 学習課題10点、レポートの要約90点で評価する				

科目名	診療技術ゼミナール (看護の統合演習)	時期	3年	担当講師
		単位数	1単位	学年担当教員 他
		時間数	15時間	
《学習目的》 卒業時の看護技術の到達状況および課題を明らかにし、臨床実践能力の向上を目指す。 《学習目標》 1. 基礎看護技術として学んできた看護技術を、患者に対して行うためのアセスメント能力を向上させる。 2. 模擬事例・状況設定に応じた方法の選択と、患者への配慮のもとに、診療援助技術を安全安楽に実践できる				
授業内容と方法				
1. 課題テーマ 1) 胃ろう造設者の経管栄養の管理 2) 術後の輸液管理 3) 自力喀痰が困難な患者の口腔内・気管内吸引 4) 心不全患者の膀胱留置カテーテルの挿入と管理 2. 学習方法 1) 4月導入からⅠ～Ⅲ期に分かれてグループで取り組む。(各期については以下を参照する) 2) 各グループのゼミナール委員が中心となり学習を進める。また、定期的にゼミナール委員会を持ち学習状況を交流する。(ゼミナール委員会では、委員長と副委員長を置く) 3) 指定された1課題テーマについて実践し、評価を受ける。 《Ⅰ期～実習前ゼミナール》 ① ゼミナール： 月 日 ② グループで話し合い、取り組む課題テーマを決める。 ③ 課題テーマ(設定事例も含む)に關しての基礎学習及び事前練習を行う。 ④ 課題テーマに必要な学習内容と方法についてまとめ、原稿を作成する。(10ページ程度) ⑤ ゼミナールでは、学習内容と事例に基づいた配役で演示を行い、交流する。 ⑥ 発表時間は1グループ60分以内、質疑応答30分。 《Ⅱ期～実習期間中》 ① Ⅰ期ゼミナール後から10月までに課題テーマ3つの学習を終えるよう学習計画を立案する。 ② 夏季休暇中をめぐり、原理原則に基づいて事例に合わせた技術カード作成する。 ③ ゼミナール委員会で、学習内容や学習計画について交流する。 ④ 実習期間中に担当事例以外でも、機会があれば技術の見学や実践を積極的に行う。 ⑤ 統合実習期間の演習日に、残り1課題テーマに取り組む、また練習を重ねる。 《Ⅲ期～国家試験後》 ① 国家試験後、4課題について練習を重ねる。 ② 診療援助技術ゼミナール当日、個人の課題テーマを提示する。 ③ 課題テーマごとのブースで実践する。(1人20分程度) ④ 評価 ～課題テーマごとの評価の視点に基づき採点し、不合格者は再度評価を受ける。 3. 評価の視点 ◆ 事例への説明、理解を得て実施できる。 ◆ 実施方法の根拠が明確である ◆ 事例の状況を確認し実施できる。 ◆ 事例の安全安楽に配慮し、実施できる。 ◆ 事例の状況にあった方法で実施できる。				
《評価方法》 実技試験は、評価表にて採点し、不合格は再評価とする。				